

アセットマネジメント One

ファンド評価レポート

2026年9月
(2026年3月末基準)

Asset Management One Fund Review Report



投資の力で未来をはぐくむ

目次

■はじめに

投資家のみなさまの資産運用に貢献することを目指して	1
---------------------------------	---

■ファンド評価について

ファンド評価の概要	2
ファンド評価の実施・改善に係る体制	3
ファンド評価の方法	4
ファンド評価の総括	6

■ファンド品質向上に向けた取り組み

ファンド品質向上に向けた取り組み	7
月次レポートにおけるユニバーサルデザインの導入	10

■ファンド評価結果(個別ファンド)

ファンド評価一覧	11
個別ファンド評価(レッド評価)	23
個別ファンド評価(グリーン評価)	60

■巻末

代表的な資産クラスの騰落率	78
用語集	79
ご留意事項等	80

投資家のみなさまの資産運用に貢献することを目指して

私たちアセットマネジメントOneは、「投資の力で未来をはぐくむ」というコーポレートメッセージのもと、資産運用のプロフェッショナルとしてより良い公募投資信託(ファンド)をご提供し、投資家のみなさまの資産運用に貢献することを目指しています。

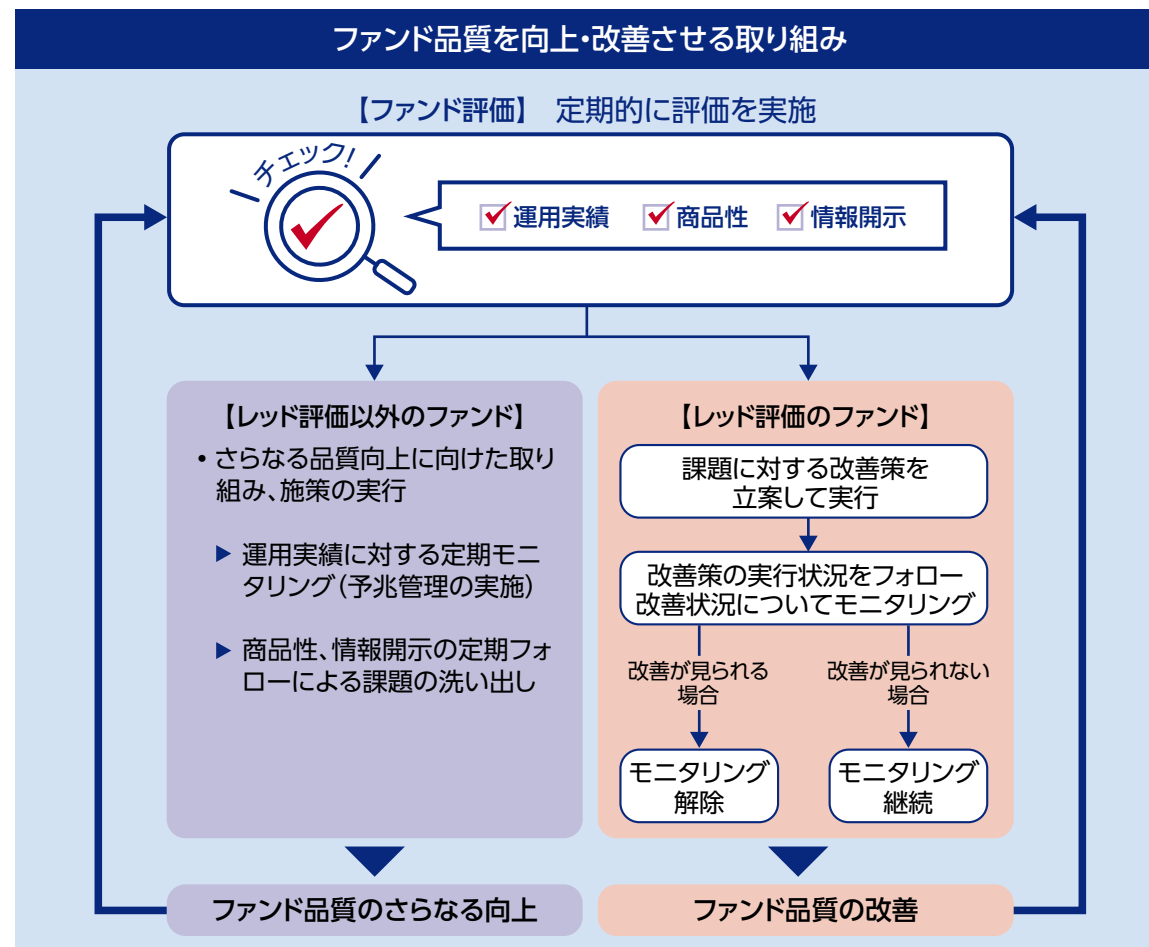
良質なファンドを投資家のみなさまにご提供するため、当社ではファンドの品質を多面的に評価・検証するとともに、その結果を踏まえた改善に継続的に取り組んでいます。こうした取り組みを通じて、投資家のみなさまに提供するファンドの価値の向上を図り、中長期的な資産運用への貢献に努めています。

本レポートでは、ファンド品質の評価結果に加え、改善に向けた取り組み状況やその成果について、投資家のみなさまにご報告しています。今後も、お客さまの大切な資産をお預かりする運用会社として、ファンドの品質および提供価値の向上に継続的に取り組んでまいります。また、これらの取り組みの成果を投資家のみなさまにより分かりやすくお伝えできるよう、内容やお示しする方法の改善を重ね、本レポートをより有用なものへと進化させてまいります。

取締役社長 杉原 規之

ファンド評価の概要

- アセットマネジメントOneは、公募投資信託（ファンド）品質の向上・改善を図ることを目的として、定期的にファンド評価を実施します。
- ファンド評価は、「運用実績」「商品性」「情報開示」の3つの項目で行います。1つでも改善余地ありと判断した場合は「レッド評価」として、改善策を立案・実行して改善状況をモニタリングします。
- ファンド評価の結果は、「アセットマネジメントOne ファンド評価レポート」として定期的に公表し、ファンド品質の向上・改善に向けた取り組みをお知らせします。



ファンド評価
に対する
レポート公表

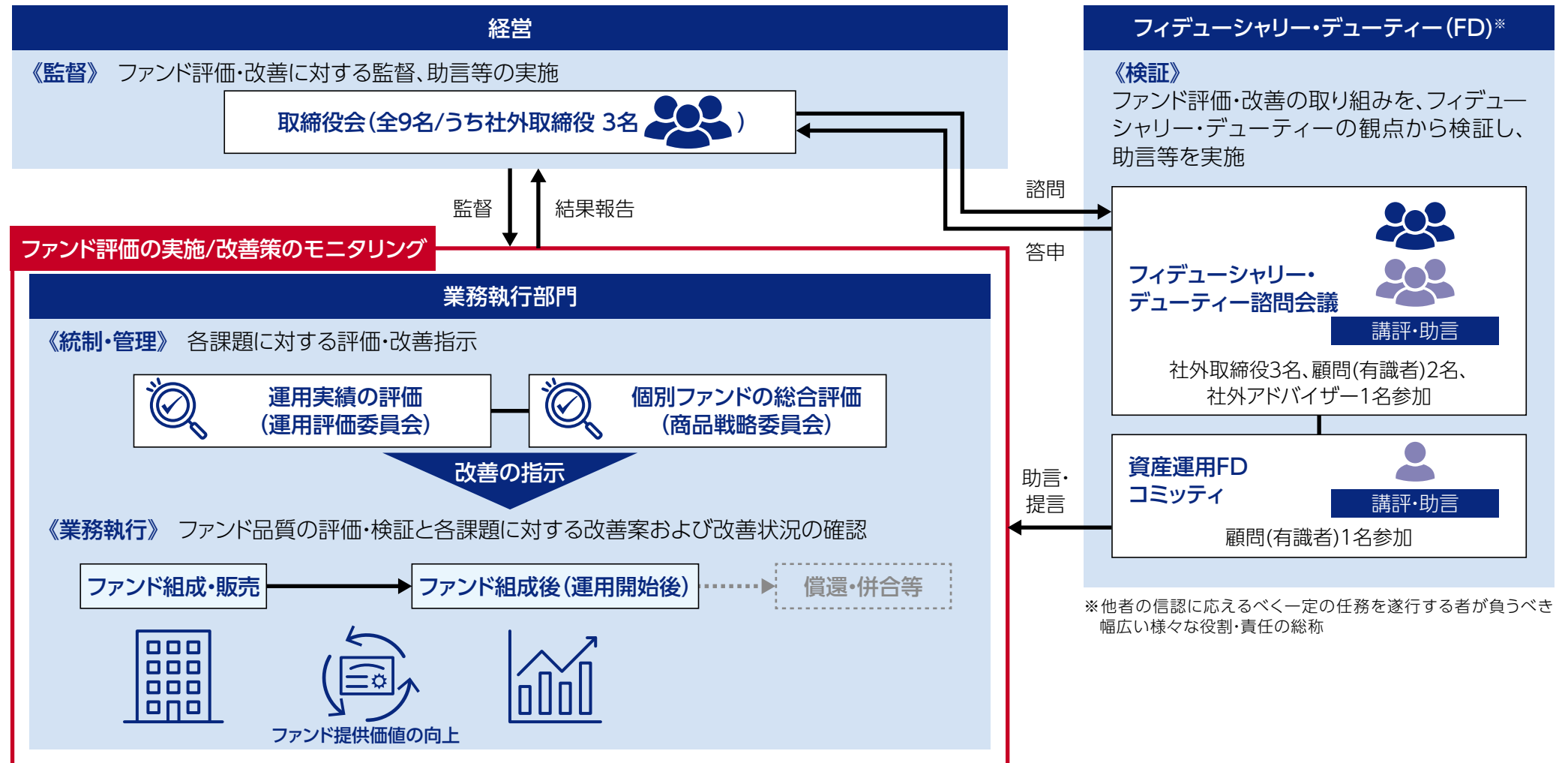
ファンド評価レポートの公表

- 当社の「ファンド評価」が客観性や透明性に留意した取り組みであることをお知らせするため、ファンド評価レポートにおいて目的や考え方を示します。
- レポートでは、改善事項があるレッド評価のファンドと、特に運用実績が上位に位置するグリーン評価のファンドを開示します。レッド評価のファンドは、改善策の立案と取り組み状況、取り組み結果（改善状況）をお知らせします。



ファンド評価の実施・改善に係る体制

- 業務執行部門によるファンド評価とファンド品質管理を徹底することによって、自律的かつ組織的にファンド品質の向上・改善に取り組めます。
- ファンド評価・改善の取り組みに、経営の関与やフィデューシャリー・デューティーの視点を加味することで、ファンド評価およびファンド品質管理の実効性向上を図ります。



ファンド評価の方法：評価項目・チェックポイント

● ファンドの評価項目である、「運用実績」「商品性」「情報開示」のチェックポイントは以下の通りです。

※ ファンドの評価項目、評価内容は今後変更する場合があります。

ファンドの評価項目	ファンド評価におけるチェックポイント								
1.運用実績チェック 提供価値のある運用実績の実現 	運用実績データをもとに評価 - お客さまに提供価値のある運用実績(費用控除後)を実現できているかをチェックします。 - 同一カテゴリー※¹に分類されるファンドの2023年3月末～2026年3月末(3年)、2021年3月末～2026年3月末(5年)の運用実績※²の相対順位と、ベンチマーク・参考指数の運用実績比較を評価基準にしているのに加え、今回からはお客様が負担するコストに見合う運用成果を実現できているかという観点も評価項目としています。		評価結果 上位 中位 下位						
2.商品性チェック 長期的な資産形成に資する商品の提供 	3つの評価項目を総合的に評価 - お客さまにとって中・長期的な資産形成に資するファンドであるかを、「品質」「費用」「資金動向」の観点でチェックを行います。 - 各項目におけるチェックポイントは以下の通りです。 <table><tr><td>品質</td><td>運用方針の一貫性や商品の継続性(経済や金融市場の環境変化に伴い品質を維持できるか)</td></tr><tr><td>費用</td><td>同一カテゴリー※¹に分類されるファンドの総経費率との相対的な比較</td></tr><tr><td>資金動向</td><td>ファンドの資金流入出や平均保有年数※³の状況からみた中・長期的な運用の継続性</td></tr></table>		品質	運用方針の一貫性や商品の継続性(経済や金融市場の環境変化に伴い品質を維持できるか)	費用	同一カテゴリー※ ¹ に分類されるファンドの総経費率との相対的な比較	資金動向	ファンドの資金流入出や平均保有年数※ ³ の状況からみた中・長期的な運用の継続性	
品質	運用方針の一貫性や商品の継続性(経済や金融市場の環境変化に伴い品質を維持できるか)								
費用	同一カテゴリー※ ¹ に分類されるファンドの総経費率との相対的な比較								
資金動向	ファンドの資金流入出や平均保有年数※ ³ の状況からみた中・長期的な運用の継続性								
3.情報開示チェック お客さまにとって分かりやすいレポートの開示 	情報開示状況を総合的に評価 - お客さまがファンドの運用状況等を適切に把握できるかどうかをチェックします。 - 月次レポート等において「必要情報の開示」ができていないかを確認します。 <table><tr><td>必要情報の開示</td><td>ファンド特性に沿った情報提供、市場動向や運用方針に関する情報開示、ベンチマーク・参考指数との比較の表示</td></tr></table>		必要情報の開示	ファンド特性に沿った情報提供、市場動向や運用方針に関する情報開示、ベンチマーク・参考指数との比較の表示					
必要情報の開示	ファンド特性に沿った情報提供、市場動向や運用方針に関する情報開示、ベンチマーク・参考指数との比較の表示								

※1 ファンドの商品性や運用戦略をもとに、同じ分類とみなされるファンドについては「同一カテゴリー」としています。こちらは外部評価機関であるMorningstar社が提供するモーニングスター・カテゴリー（MSカテゴリー）を参考にしています。

※2 運用実績が5年以上のファンドは3年・5年の実績をもって、5年未満のファンドは3年のみの実績で評価しています。

※3 平均保有年数＝年間平均残高÷年間解約額で計算します。

※上記評価にあたり、モーニングスター・ダイレクトを使用しています。

※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。

ファンド評価の方法：結果表示・開示について

- ファンドの評価項目である「運用実績」「商品性」「情報開示」について、1つでも「改善余地あり」と判断した場合は「レッド評価」とします。
- 「運用実績」について、他社の同一カテゴリーファンドと比較して上位に位置するファンドは「グリーン評価」、下位に位置するファンドは「改善余地あり」として「レッド評価」とします。

① 評価結果の表示方法について

運用実績チェック	運用実績が良好  グリーン評価	運用実績が中程度 ✓ チェックマーク	運用実績が低迷  レッド評価	運用開始後、3年未満 / 運用実績評価対象外 — 運用評価対象外
商品性チェック		商品性に大きな課題なし ✓ チェックマーク	商品性に改善余地あり  レッド評価	
情報開示チェック		情報開示に大きな課題なし ✓ チェックマーク	情報開示に改善余地あり  レッド評価	

② 個別ファンド開示対象について

 「グリーン評価」のファンドについて詳細開示 運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点を記載	✓ レポート開示なし	 「レッド評価」のファンドについて詳細開示 課題認識と改善に向けた取り組みを記載
---	------------	---

ファンド評価の総括

- 2026年3月末時点で当社が運用を行っている公募投資信託533本のうち、以下のファンドを除外した463本(全体の約87%)がファンド評価の対象です。

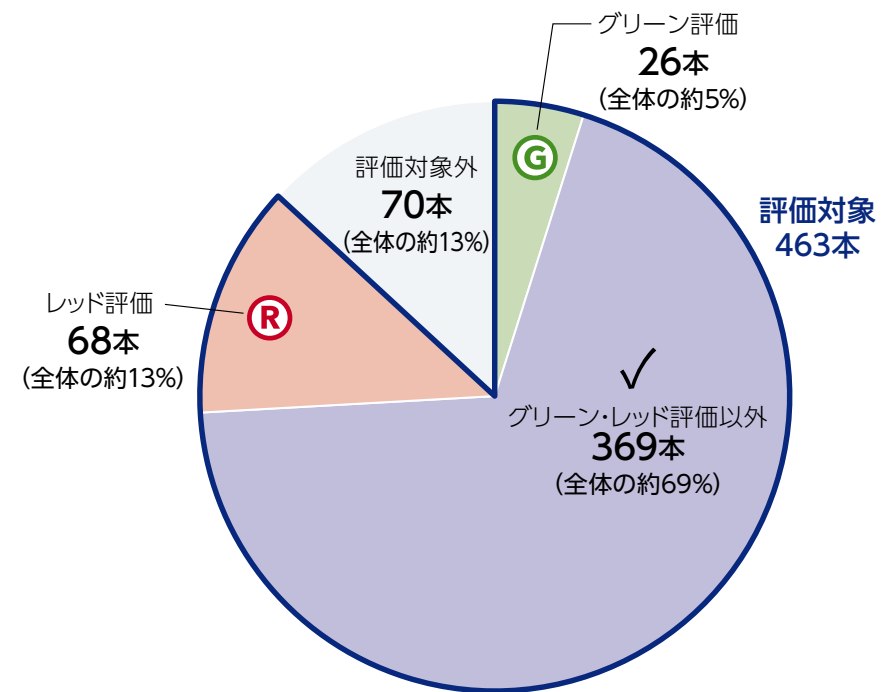
<主な対象外ファンド>

追加型公社債投信(MRF、公社債投信各月号)、マネープール型ファンド、ブルベア型ファンド、償還まで1年以内のファンド、設定後6ヶ月以内のファンド 等

- 評価対象ファンドの463本のうち、運用実績が上位のグリーン評価ファンドは26本(全体の約5%)、グリーン評価・レッド評価以外のファンドは369本(全体の約69%)、改善余地ありと評価したレッド評価ファンドは68本(全体の約13%)という結果となりました。

公募投資信託		
	評価対象ファンド	評価対象外ファンド
533本	463本 (全体の約87%)	70本 (全体の約13%)
G グリーン評価 運用実績が上位	✓ チェックマーク グリーン・レッド評価以外の ファンド	R レッド評価 運用実績、商品性、情報開示の いずれかに改善余地あり
26本 (全体の約5%)	369本 (全体の約69%)	68本 (全体の約13%)

※グリーン評価とレッド評価では評価項目が異なります。詳細はP5,P7をご参照ください。



④ レッド評価 → ✓ チェック

ファンド品質向上に向けた取り組み レッド評価ファンドの改善状況

- 2024年9月および2025年3月評価基準においてレッド評価とした72件は、改善に向けた取り組みの結果、2026年3月評価基準では20件がレッド評価から外れました。今後もファンド品質の向上・改善に向けた取り組みを継続してまいります。

※項目単位で集計している場合は「件」、ファンド数で集計している場合は「本」と記載しております。そのため、件数の合計は対象ファンド数と一致しない場合があります。また、償還済みのファンドまたは償還予定のため今年度評価対象から除外したファンドを除きます。

情報開示: 4件

商品性: 12件

運用実績: 56件

2024年9月、2025年3月基準
レッド評価件数

28%
改善

情報開示: 0件

商品性: 10件

運用実績: 42件

2026年3月基準
レッド評価件数

改善ファンドの一覧

ファンド名	実績	商品	情報
OneグローバルESG厳選株ファンド<DC年金>	④ → ✓		
One豪ドル債券ファンド(年1回決算型)	④ → ✓		
AMO Jリートアクティブファンド(毎月決算型)	④ → ✓		
通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型) ブラジルリアルコース	④ → ✓		
みずほ J-REIT ファンド(年1回決算型)	④ → ✓		
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク4%)<DC年金>	④ → ✓		
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク6%)<DC年金>	④ → ✓		
投資のソムリエ	④ → ✓		
投資のソムリエ<DC年金>	④ → ✓		
みらいのサイフ(アドバンスコース)	④ → ✓		

次ページにて詳細ご説明

ファンド名	実績	商品	情報
みらいのサイフ(エントリーコース)	④ → ✓		
みらいのサイフ(ベーシックコース)	④ → ✓		
リスク抑制世界8資産 バランスファンド	④ → ✓		
リスク抑制世界8資産 バランスファンド(DC)	④ → ✓		
グローバル新世代関連株式ファンド		④ → ✓	
One ターゲットリターン・ファンド(4%コース)		④ → ✓	
One高配当利回り厳選ジャパン			④ → ✓
One成長株オープン			④ → ✓
One日本株式オープン			④ → ✓
ドルマネーファンド			④ → ✓

※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。
※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。

④ 運用実績 → ✓ チェック

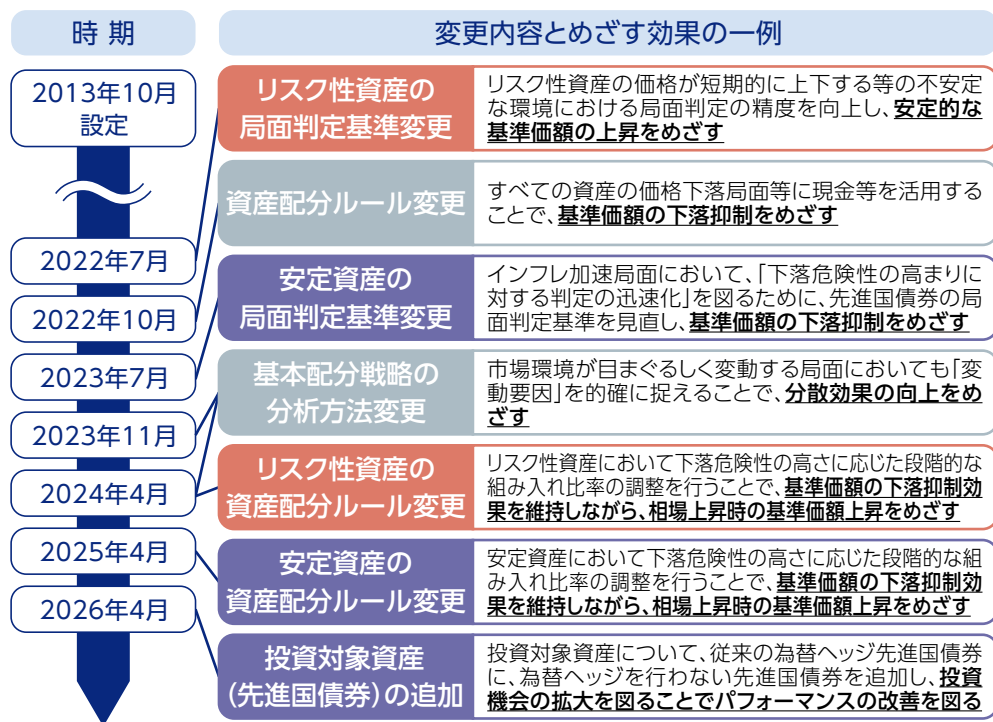
ファンド品質向上に向けた取り組み レッド評価ファンドの改善状況

投資のソムリエ、投資のソムリエ<DC年金>

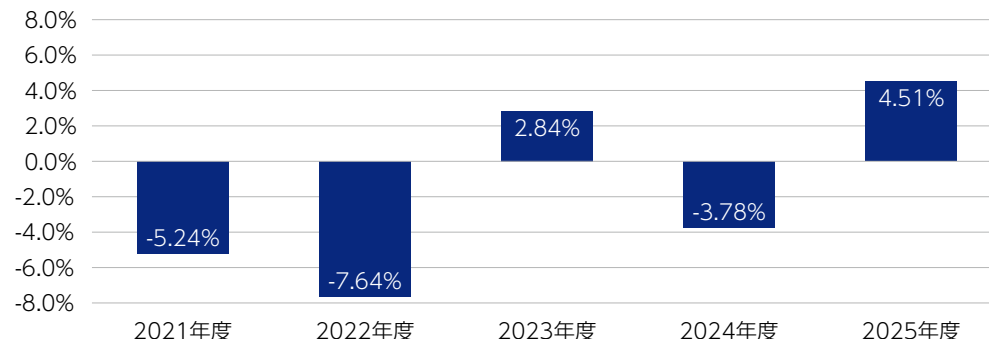
ファンドの概要

- 世界各国の株式・債券・リートを主要投資対象とします。
- 各資産の配分比率を適宜変更することで、基準価額の変動リスクを年率4%程度に抑えながら、安定的な基準価額の上昇をめざします。
- 外貨建資産は投資環境に応じて弾力的に為替ヘッジを行い、一部または全部の為替リスクを軽減します。

改善に向けた取り組み

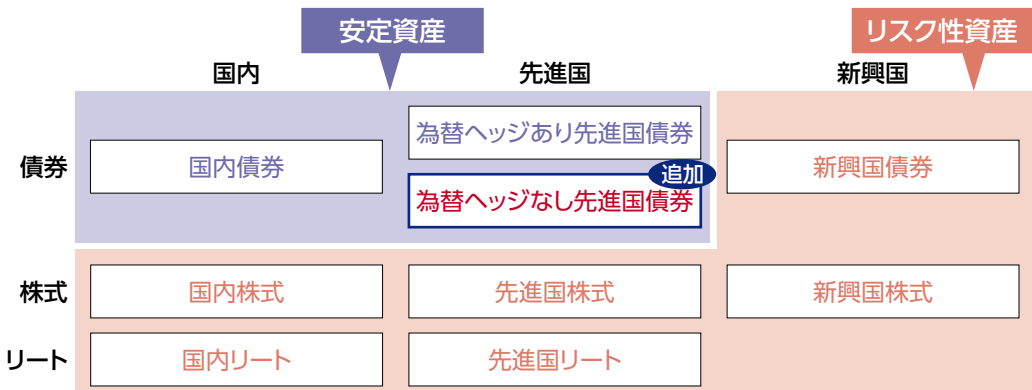


投資のソムリエ基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*



* 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

- 当ファンドシリーズでは2026年4月14日より信託約款を変更し、投資対象資産に為替ヘッジを行わない先進国債券を追加しました。
- これにより、投資の幅を広げ、より柔軟な運用を実現するとともに、投資機会の拡大を図ることで、さらなるパフォーマンスの改善を図ります。



■ これまでの運用モデルの見直し(改良)によって、**市場環境への対応力が高まり、パフォーマンスが改善する**と考えています。

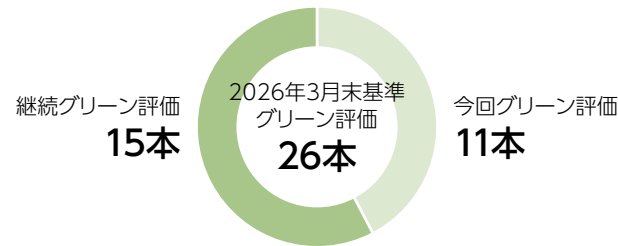
■ 今後も、さまざまな市場環境に対応できるよう、運用モデルの改良を継続し、当ファンドが長期の視点で資産形成に貢献できるよう努めてまいります。

※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。
※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。

⑥ 運用実績

ファンド品質向上に向けた取り組み 運用実績グリーン評価ファンド

- 2026年3月評価基準においてグリーン評価となったファンドは26本となりました。このうち11本は今回の評価からグリーン評価、残りの15本は過去2回に続いて今回もグリーン評価となり、3回連続でグリーン評価となりました。今後もファンド品質の向上に向けて、引き続き取り組んでまいります。



■継続グリーン評価ファンドの一覧

ファンド名	詳細
Oneジャパン・セレクト	投資信託10年／国内株式コア 部門 最優秀ファンド賞
Oneジャパン・セレクト＜DC年金＞	
One日本インカム株式ファンド(3ヵ月決算型)	投資信託20年／国内株式高配当 部門 優秀ファンド賞
One割安日本株ファンド	投資信託10年／国内株式バリュー 部門 優秀ファンド賞
One割安日本株ファンド(年1回決算型)	投資信託10年／国内株式バリュー 部門 優秀ファンド賞
グローバル・アロケーション・ファンド 毎月決算・ 為替ヘッジなしコース(目標払出し型)	投資信託／バランス比率変動型 (株式・REIT中心)部門 最優秀ファンド賞
One高配当利回り厳選ジャパン	
MHAMジャパンオープン	
フロンティア・ワールド・インカム・ファンド	
フロンティア・ワールド・インカム・ファンド(年1回決算型)	
グローバル・アロケーション・オープンAコース(年1回決算・為替ヘッジなし)	
グローバル・アロケーション・オープンBコース(年4回決算・為替ヘッジなし)	
グローバルドライブ(3ヵ月決算型) 為替ヘッジなし	
グローバルドライブ(年1回決算型) 為替ヘッジなし	
マネックス資産設計ファンド エボリューション	

■今回グリーン評価ファンドの一覧

ファンド名	詳細
Oneニッポン債券オープン	投資信託／外国債券円ヘッジ 部門 最優秀ファンド賞
フィッシャーUSマイクロ株式ファンド	投資信託／北米株式中小型 部門 最優秀ファンド賞
AI(人工知能)活用型世界株ファンド	投資信託年／外国株式コア 部門 優秀ファンド賞
One世界好配当株式ファンド(毎月決算型) (為替ヘッジあり)	
Oneベトナム株式ファンド	
米国インフラ関連株式ファンド＜為替ヘッジあり＞	
米国インフラ関連株式ファンド＜為替ヘッジなし＞	
メディカル・サイエンス・ファンド	
LOSA長期保有型国際分散インデックスファンド	
マネックス資産設計ファンド＜育成型＞	
マネックス資産設計ファンド＜隔月分配型＞	

<ファンド賞について>

上記受賞歴は、R&Iファンド大賞2026のものです。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

<R&Iファンド大賞について>

「投資信託部門」は過去3年間、「投資信託10年部門」は過去10年間、「投資信託20年部門」は過去20年間を選考期間としています。選考に際してはシャープレシオによるランキングに基づき、最大ドローダウン、償還予定日までの期間、残高の規模等を加味したうえで選出しています。選考対象は国内籍公募追加型株式投信とし、確定拠出年金専用およびSMA・ラップ口座専用は除きます。評価基準日は2026年3月31日。

2025年度の取り組み

月次レポートにおけるユニバーサルデザインの導入

- 2025年12月より、月次レポートにおいて、デザインの変更を実施しました。その一環として、文字の判別性を高めたユニバーサルデザインフォント(UDフォント)の採用に加え、色覚多様性にも配慮した配色の見直しを行っています。
- 今後も、アクセシビリティおよびユーザビリティの向上に継続的に取り組んでまいります。

ユニバーサルデザインフォントの採用

フォントについては、UDフォントの採用により、視認性・判読性を高め、表示環境や利用者の特性にかかわらず読みやすい設計としています。

フォントによる見え方の違い

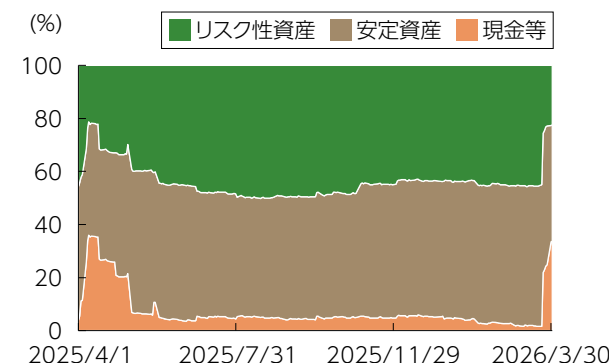
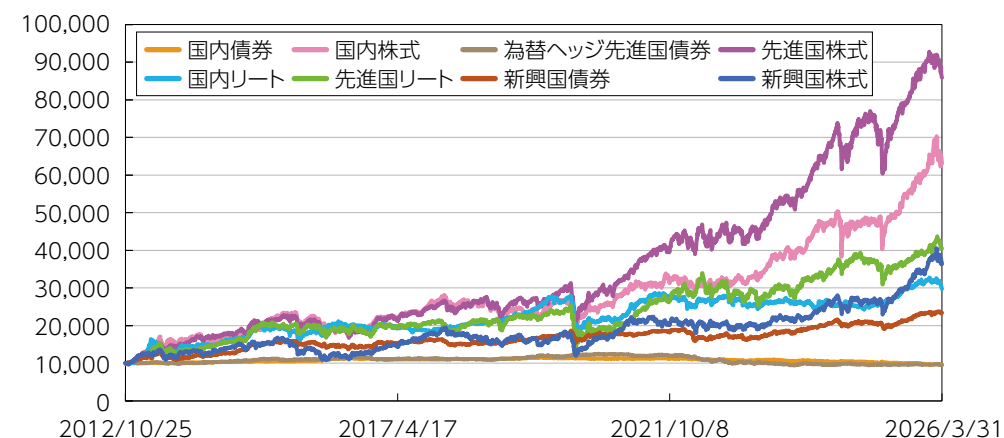
	画数の多い漢字	ひらがな	英数字
一般的なフォント	騰落率	あいうえお	368SCG
UDフォント	騰落率	あいうえお	368SCG

【UDフォントの主な特徴】

- ☑ 文字がつぶれにくく、小さくても見やすい
- ☑ 適切な余白設計で密集していても読みやすい
- ☑ 印刷・画面等様々な環境で見やすく、低解像度にも強い
- ☑ 輪郭がかすれたり、つぶれたりしても判読しやすい

配色の見直し

グラフの配色は、隣り合う色の明度・彩度を交互にする、異なる色相を組み合わせる、境界線を使用する等により、色覚多様性に配慮し、視認性の高い配色としています。



⬆ 区別しやすい配色をする、隣り合う色は明度・彩度を交互にすることで視認性を向上

⬆ 色と色の境界に白い線を入れることで視認性を向上

ファンド評価一覧_株式 (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目		実績 運用実績		商品 商品性		開示 情報開示		ファンド評価結果		グリーン評価 (運用実績上位)		レッド評価 (改善余地あり)		✓ グリーン・レッド評価以外		— 運用評価対象外	
ファンド名/HPリンク		実績	商品	開示	詳細	ファンド名/HPリンク		実績	商品	開示	詳細	ファンド名/HPリンク		実績	商品	開示	詳細
株式/国内						20	Oneキャピタル・グロース・オープン 愛称:ザ・ベスト・マネジャー	Ⓡ	Ⓡ	✓	■						
1	AR国内バリュー株式ファンド 愛称:サムライバリュー	—	✓	✓		21	One高配当利回り厳選ジャパン	ⓐ	✓	✓	■						
2	One国内株式インデックスファンド<DC年金>	—	✓	✓		22	One小型株オープン 愛称:波物語	✓	✓	✓							
3	DIAM国内株式パッシブ・ファンド	—	✓	✓		23	One国内株オープン 愛称:自由演技	✓	✓	✓							
4	One日本株式オープン<DC年金> 愛称:技あり一本<DC年金>	✓	✓	✓		24	One国内株オープン(年2回決算型) 愛称:自由演技(年2回)	✓	✓	✓							
5	MHAM TOPIXオープン	—	Ⓡ	Ⓡ	■	25	One国内株式ESGフォーカスファンド<DC年金>	✓	✓	✓							
6	MHAM株式インデックスファンド225	—	✓	✓		26	Oneジャパン・セクション	ⓐ	✓	✓	■						
7	MHAMジャパンオープン	ⓐ	✓	✓	■	27	Oneジャパン・セクション<DC年金>	ⓐ	✓	✓	■						
8	MHAMトピックスファンド	—	Ⓡ	Ⓡ	■	28	One新興企業日本株オープン 米ドル型	✓	✓	✓							
9	One日本株式<DC年金>	Ⓡ	✓	✓	■	29	One新興企業日本株ファンド	Ⓡ	✓	✓	■						
10	MHAM日本成長株ファンド<DC年金>	Ⓡ	✓	✓	■	30	One新興市場日本株ファンド	✓	✓	✓							
11	One日本バリュー株オープン<DC年金> 愛称:Vオープン<DC年金>	✓	✓	✓		31	One新興成長株オープン 愛称:J-フロンティア	Ⓡ	✓	✓	■						
12	One DC 国内株式インデックスファンド	—	✓	✓		32	One成長株オープン 愛称:出世株	Ⓡ	✓	✓	■						
13	One ETF ESG	—	✓	✓		33	One日本インカム株式ファンド(3ヵ月決算型)	ⓐ	✓	✓	■						
14	One ETF JPX/S&P 設備・人材投資指数	—	✓	✓		34	One日本株式オープン 愛称:技あり一本 るいとう	✓	✓	✓							
15	One ETF JPX日経400	—	✓	✓		35	One日本経済成長戦略ファンド 愛称:ニッポンのおもてなし	✓	✓	✓							
16	One ETF JPX日経中小型	—	✓	✓		36	One日本小型株ファンド 愛称:風物語	✓	✓	✓							
17	One ETF 高配当日本株	—	✓	✓		37	One日本成長株オープン	Ⓡ	✓	✓	■						
18	One ETF トピックス	—	✓	✓		38	One日本の成長力α<DC年金>	Ⓡ	✓	✓	■						
19	One ETF 日経225	—	✓	✓		39	One割安日本株ファンド	ⓐ	✓	✓	■						

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_株式 (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)	レッド評価 (改善余地あり)	✓ グリーン・レッド評価以外	— 運用評価対象外
ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細	
40	One割安日本株ファンド(年1回決算型)	Ⓖ	✓	✓	■						
41	インデックスオープン・日経225	—	✓	✓							
42	インデックス マネジメント ファンド 225	—	✓	✓							
43	インデックス マネジメント ファンド 225(DC年金)	—	✓	✓							
44	海外消費関連日本株ファンド 愛称:クール・ジャパン	Ⓡ	✓	✓	■						
45	企業価値成長小型株ファンド 愛称:眼力	✓	✓	✓							
46	きらぼし・みらい応援株式ファンド 愛称:きらぼしみらい	Ⓡ	✓	✓	■						
47	厳選ジャパン	✓	✓	✓							
48	コア30インデックス	—	Ⓡ	✓	■						
49	構造改革ジャパン	—	✓	✓							
50	国内株式アクティブファンドセクション(ラップ専用)	✓	✓	✓							
51	ジャパンニューエイジオープン	✓	✓	✓							
52	新興企業日本株ファンド(資産成長型)	Ⓡ	✓	✓	■						
53	たわらノーロード TOPIX	—	✓	✓							
54	たわらノーロード 国内株式<ラップ専用>	—	✓	Ⓡ	■						
55	たわらノーロード 日経225	—	✓	✓							
56	日経225ノーロードオープン	—	✓	✓							
57	日本株オープン 新潮流	✓	✓	✓							
58	日本厳選中小型株ファンド	Ⓡ	✓	✓	■						
59	日本製鉄グループ株式オープン	—	✓	✓							

ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細
60	ハイブリッド・セクション 愛称:変幻自在						✓	✓	✓	
61	ファンド・コロワイド<DC年金>						—	✓	✓	
62	ファンド"メガ・テック"						✓	✓	✓	
63	ブランドエクイティ						✓	✓	✓	
64	マネックス・日本成長株ファンド 愛称:ザ・ファンド@マネックス						Ⓡ	✓	✓	■
65	みずほ日経平均ファンド<DC年金>						—	✓	✓	
66	みずほ日本オールキャップ株式ファンド						—	✓	✓	
67	未来変革日本株ファンド 愛称:挑戦者たち						Ⓡ	✓	✓	■
株式／海外										
68	AI(人工知能)活用型世界株ファンド 愛称:ディープAI						Ⓖ	✓	✓	■
69	One外国株式インデックスファンド<DC年金>						—	✓	✓	
70	One外国株式オープン<DC年金>						✓	✓	✓	
71	DIAM外国株式パッシブ・ファンド						—	✓	✓	
72	DIAM新興国株式インデックスファンド<DC年金>						—	✓	✓	
73	One DC 新興国株式インデックスファンド						—	✓	✓	
74	One DC 先進国株式インデックスファンド						—	✓	✓	
75	One DC 米国株式(S&P500)インデックスファンド						—	✓	✓	
76	One ETF FTSE・サウジアラビア・インデックス						—	✓	✓	
77	One ETF 南方 中国A株 CSI500						—	✓	✓	
78	One NYダウ・インデックス・ファンド						—	✓	✓	

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_株式 (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)	レッド評価 (改善余地あり)	✓ グリーン・レッド評価以外	— 運用評価対象外
ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細	
79	One VIPフォーカス・ファンド 愛称:アジア倶楽部						—	✓	✓		
80	One外国株式インデックスファンド						—	✓	✓		
81	One厳選米国株式ファンド 愛称:アメリカンセレクション						✓	✓	✓		
82	Oneサザンアジア株式ファンド						Ⓡ	✓	✓	■	
83	Oneジャナス米国中小型株式ファンド						Ⓡ	✓	✓	■	
84	One世界好配当株オープン(毎月決算コース) 愛称:世界配当倶楽部						✓	✓	✓		
85	One世界好配当株式ファンド(毎月決算型) 愛称:ハッピーインカム						✓	✓	✓		
86	One世界好配当株式ファンド(毎月決算型)(為替ヘッジあり) 愛称:ハッピーインカム(為替ヘッジあり)						ⓐ	✓	✓	■	
87	One中国関連株オープン 愛称:チャイニーズ・エンジェル						✓	✓	✓		
88	Oneピュア・インド株式ファンド						✓	✓	✓		
89	One米国好配当株式ファンド(年1回決算型) 為替ヘッジあり 愛称:ゴールデンルーキー						✓	✓	✓		
90	One米国好配当株式ファンド(年1回決算型) 為替ヘッジなし 愛称:ゴールデンルーキー						✓	✓	✓		
91	One米国好配当株式ファンド(毎月決算型) 為替ヘッジあり 愛称:ゴールデンルーキー						✓	✓	✓		
92	One米国好配当株式ファンド(毎月決算型) 為替ヘッジなし 愛称:ゴールデンルーキー						✓	✓	✓		
93	Oneベトナム株式ファンド 愛称:ベトナムでフォー						ⓐ	✓	✓	■	
94	インデックスオープン・アメリカ株式						—	✓	✓		
95	インデックスオープン・先進国株式						—	✓	✓		
96	新成長中国株式ファンド 愛称:シャングリラ						✓	✓	✓		
97	たわらノーロード NASDAQ100						—	✓	✓		
98	たわらノーロード NYダウ						—	✓	✓		

ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細	
99	たわらノーロード S&P500						—	✓	✓		
100	たわらノーロード S&P500配当貴族						—	Ⓡ	✓	■	
101	たわらノーロード インド株式Nifty50						—	✓	✓		
102	たわらノーロード インド株式NiftyMidcap50						—	✓	✓		
103	たわらノーロード 新興国株式						—	✓	✓		
104	たわらノーロード 新興国株式<ラップ専用>						—	✓	✓		
105	たわらノーロード 先進国株式						—	✓	✓		
106	たわらノーロード 先進国株式<為替ヘッジあり>						—	✓	✓		
107	たわらノーロード 先進国株式(為替ヘッジあり)<ラップ専用>						—	✓	✓		
108	たわらノーロード 先進国株式(為替ヘッジなし)<ラップ専用>						—	✓	✓		
109	フィッシャーUSマイクロ株式ファンド						ⓐ	✓	✓	■	
110	米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジあり> 愛称:グレート・アメリカ<為替ヘッジあり>						ⓐ	✓	✓	■	
111	米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジなし> 愛称:グレート・アメリカ<為替ヘッジなし>						ⓐ	✓	✓	■	
112	米国厳選成長株集中投資ファンド Aコース(為替ヘッジあり) 愛称:新世紀アメリカ~Yes, We Can!~						✓	✓	✓		
113	米国厳選成長株集中投資ファンド Bコース(為替ヘッジなし) 愛称:新世紀アメリカ~Yes, We Can!~						✓	✓	✓		
114	米国小型バリュー株ファンド Aコース(為替ヘッジあり) 愛称:アメリカン・エンジェル						✓	✓	✓		
115	米国小型バリュー株ファンド Bコース(為替ヘッジなし) 愛称:アメリカン・エンジェル						✓	✓	✓		
116	米国割安株ファンド 愛称:ザ・バリューハンター						Ⓡ	✓	✓	■	
117	マシューズ・アジア株式ファンド 愛称:パシフィック・タイガー						Ⓡ	✓	✓	■	
118	みずほエマージング株式オープン						✓	✓	✓		

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_株式 (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	③	グリーン評価 (運用実績上位)	④	レッド評価 (改善余地あり)	✓	グリーン・レッド評価以外	—	運用評価対象外
ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細					
119	みずほ好配当世界株オープン						✓	✓	✓						
株式／内外															
120	AIプラスファンド						✓	✓	✓						
121	MHAM株式オープン						④	✓	✓	■					
122	One／ウエリントン・コントラリアン・バリュー・ファンド						—	✓	✓						
123	Oneグローバル・アクティブ・オープン						✓	✓	✓						
124	OneグローバルESG厳選株ファンド<DC年金>						✓	✓	✓						
125	Oneグローバル中小型長期成長株ファンド 愛称:キセキ						④	✓	✓	■					
126	Oneグローバル中小型長期成長株ファンド<DC年金> 愛称:キセキ<DC年金>						④	✓	✓	■					
127	One／フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド (毎月決算・予想分配金提示型)						—	✓	✓						
128	One／フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド (隔月決算・予想分配金提示型)						—	✓	✓						
129	One／フィデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド(成長型)						—	✓	✓						
130	暗号資産関連株式ファンド 愛称:シークレット・コード						—	✓	✓						
131	インデックスオープン・世界株式						—	✓	✓						
132	グローバル・オポチュニティ・パートナーズ・ファンド						—	✓	✓						
133	グローバル新世代関連株式ファンド						✓	✓	✓						
134	グローバル・セキュリティ株式ファンド(3ヵ月決算型)						✓	✓	✓						
135	グローバル・セキュリティ株式ファンド(年1回決算型)						✓	✓	✓						
136	グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界(ESG)						✓	✓	✓						
137	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界						✓	✓	✓						

ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細				
138	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(限定為替ヘッジ) 愛称:未来の世界						✓	✓	✓					
139	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(年2回決算型) (為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界(年2回決算型)						✓	✓	✓					
140	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(年2回決算型) (限定為替ヘッジ) 愛称:未来の世界(年2回決算型)						✓	✓	✓					
141	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(予想分配金提示型) (為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界(予想分配金提示型)						✓	✓	✓					
142	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(予想分配金提示型) (限定為替ヘッジ) 愛称:未来の世界(予想分配金提示型)						✓	✓	✓					
143	シュローダー・サステナブル・世界株ファンド(為替ヘッジなし) 愛称:ソーシャル・バリュー(為替ヘッジなし)						④	✓	✓	■				
144	シュローダー・サステナブル・世界株ファンド(限定為替ヘッジ) 愛称:ソーシャル・バリュー(限定為替ヘッジ)						④	✓	✓	■				
145	新興国ハイクオリティ成長株式ファンド 愛称:未来の世界(新興国)						④	✓	✓	■				
146	世界eコマース関連株式オープン 愛称:みらい生活						④	✓	✓	■				
147	世界株配当収益追求ファンド(価格変動抑制型) 愛称:はいとудり						—	✓	✓					
148	世界高配当株セレクト(目標払出し型) 毎月決算・為替ヘッジありコース						—	✓	✓					
149	世界高配当株セレクト(目標払出し型) 毎月決算・為替ヘッジなしコース						—	✓	✓					
150	世界中小型株式ファンド 愛称:シャイニング・フューチャー						✓	✓	✓					
151	先進国ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジあり) 愛称:未来の世界(先進国)						④	✓	✓	■				
152	先進国ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし) 愛称:未来の世界(先進国)						✓	✓	✓					
153	たわらノーロード 全世界株式						—	✓	✓					
154	たわらノーロード フォーカス AI						—	✓	✓					
155	たわらノーロード フォーカス 次世代通信						—	✓	✓					
156	たわらノーロード フォーカス フィンテック						—	④	✓	■				
157	たわらノーロード フォーカス ロボット・テクノロジー						—	✓	✓					

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_株式、債券

(ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)	レッド評価 (改善余地あり)	✓ グリーン・レッド評価以外	— 運用評価対象外
ファンド名/HPリンク								実績	商品	開示	詳細
158	ファンズミス・グローバル・エクイティ・ファンド						Ⓡ	✓	✓		
159	フィッシャー・グローバル・スモールキャップ・エクイティ・ファンド 愛称:ライジング・フューチャー						✓	✓	✓		
160	みずほサステナブルファンドシリーズ - LO・サーキュラー・エコノミー						—	✓	✓		
161	みずほサステナブルファンドシリーズ - ロベコ・スマート・エネルギー						—	✓	✓		
162	メディカル・サイエンス・ファンド 愛称:医療の未来						ⓖ	✓	✓		
163	ワールド・インフラ好配当株式ファンド(成長型) 愛称:世界のかけ橋(成長型)						✓	✓	✓		
164	ワールド・インフラ好配当株式ファンド(毎月決算型) 愛称:世界のかけ橋(毎月 決算型)						✓	✓	✓		
債券／国内											
165	One国内債券インデックスファンド<DC年金>						—	✓	✓		
166	DIAM国内債券パッシブ・ファンド						—	✓	✓		
167	DLIBJ公社債オープン(短期コース)						—	✓	✓		
168	DLIBJ公社債オープン(中期コース)						✓	✓	✓		
169	MHAM物価連動国債ファンド 愛称:未来予想						—	✓	✓		
170	One DC 国内債券インデックスファンド						—	✓	✓		
171	たわらノーロード 国内債券						—	✓	✓		
172	たわらノーロード 国内債券<ラップ専用>						—	✓	✓		
173	日本債券ファンド						—	✓	✓		
債券／海外											
174	One外国債券インデックスファンド<DC年金>						—	✓	✓		
175	DIAM外国債券パッシブ・ファンド						—	✓	✓		
176	One DC 先進国債券インデックスファンド						—	✓	✓		
177	One USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)						✓	✓	✓		
178	One USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)						✓	✓	✓		
179	One USインカムオープン毎月決算コース(為替ヘッジなし)						✓	✓	✓		
180	Oneグローバル・ボンド・ポート 毎月決算コース2 愛称:ぶんぱいくん						Ⓡ	✓	✓		
181	One高格付インカム・オープン(1年決算コース) 愛称:ハッピークローバー1年						—	✓	✓		
182	One高格付インカム・オープン(毎月決算コース) 愛称:ハッピークローバー						—	✓	✓		
183	One高格付インカム・オープン<DC年金> 愛称:ハッピークローバー<DC年金>						—	✓	✓		
184	One高格付外債ファンド 愛称:トリプルエース						—	✓	✓		
185	One豪ドル債券ファンド(年1回決算型)						✓	✓	✓		
186	One豪ドル債券ファンド(毎月決算型)						✓	✓	✓		
187	One新興資源国債券ファンド 愛称:ラッキークローバー						—	✓	✓		
188	One日本企業米ドル建て債券ファンド2022-09 愛称:ドルのめぐみ2022-09						—	✓	✓		
189	Oneブラジル債券ファンド						✓	✓	✓		
190	海外国債ファンド						✓	✓	✓		
191	海外国債ファンド(3ヵ月決算型)						✓	✓	✓		
192	グローバル・ボンド・ポート(Cコース)						Ⓡ	✓	✓		
193	グローバル・ボンド・ポート(Dコース)						Ⓡ	✓	✓		
194	グローバル・ボンド・ポート 毎月決算コース(為替ヘッジなし)						Ⓡ	✓	✓		
195	高金利通貨ファンド						—	✓	✓		

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_債券 (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)	レッド評価 (改善余地あり)	✓ グリーン・レッド評価以外	— 運用評価対象外
ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細	
196	先進国投資適格債券ファンド(為替ヘッジあり) 愛称:マイワルツ	✓	✓	✓							
197	たわらノーロード 外国債券(為替ヘッジあり)<ラップ専用>	—	✓	✓							
198	たわらノーロード 外国債券(為替ヘッジなし)<ラップ専用>	—	✓	✓							
199	たわらノーロード 新興国現地通貨建債券<ラップ専用>	—	✓	✓							
200	たわらノーロード 先進国債券	—	✓	✓							
201	たわらノーロード 先進国債券<為替ヘッジあり>	—	✓	✓							
202	ハイブリッド証券ファンド 円コース	✓	✓	✓							
203	ハイブリッド証券ファンド 豪ドルコース	✓	✓	✓							
204	ハイブリッド証券ファンド ブラジルリアルコース	✓	✓	✓							
205	ハイブリッド証券ファンド 米ドルコース	✓	✓	✓							
206	フロンティア・ワールド・インカム・ファンド	Ⓔ	✓	✓							
207	フロンティア・ワールド・インカム・ファンド(年1回決算型)	Ⓔ	✓	✓							
208	米国ハイイールド債券ファンド 円コース	✓	✓	✓							
209	米国ハイイールド債券ファンド 豪ドルコース	✓	✓	✓							
210	米国ハイイールド債券ファンド ブラジルリアルコース	✓	✓	✓							
211	米国ハイイールド債券ファンド 米ドルコース	✓	✓	✓							
212	米国ハイイールド債券ファンド 南アフリカランドコース	✓	✓	✓							
213	みずほUSハイイールドオープンAコース(為替ヘッジあり)	✓	✓	✓							
214	みずほUSハイイールドオープンBコース(為替ヘッジなし)	✓	✓	✓							
215	みずほUSハイイールドオープン(年1回決算型) 為替ヘッジあり	✓	✓	✓							
ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細	
216	みずほUSハイイールドオープン(年1回決算型) 為替ヘッジなし	✓	✓	✓							
217	みずほUSハイイールドファンド<DC年金>	✓	✓	✓							
218	みずほ豪ドル債券ファンド 愛称:コアラの森	✓	✓	✓							
219	みずほ豪ドル債券ファンド(年1回決算型) 愛称:コアラの森	✓	✓	✓							
220	モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド(年1回決算型) (為替ヘッジあり)	✓	✓	✓							
221	モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド(年1回決算型) (為替ヘッジなし)	✓	✓	✓							
222	モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド(毎月決算型) (為替ヘッジあり)	✓	✓	✓							
223	モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド(毎月決算型) (為替ヘッジなし)	✓	✓	✓							
224	ルーミス・グローバル債券ファンド(毎月決算型)	✓	✓	✓							
225	ルーミス米国投資適格債券ファンド[年2回決算型]	—	✓	✓							
226	ルーミス米国投資適格債券ファンド[毎月決算型]	✓	✓	✓							
債券／内外											
227	One円ストラテジー債券ファンド 愛称:円クルーズ	✓	✓	✓							
228	One円建て債券ファンドII 2021-12 愛称:円結びII 2021-12	—	✓	✓							
229	One円建て債券ファンドII 2022-03 愛称:円結びII 2022-03	—	✓	✓							
230	One円建て債券ファンドII 2022-06 愛称:円結びII 2022-06	—	✓	✓							
231	One円建て債券ファンドII 2022-09 愛称:円結びII 2022-09	—	✓	✓							
232	One円建て債券ファンドII 2023-01 愛称:円結びII 2023-01	—	✓	✓							
233	One円建て債券ファンドIII 2023-03 愛称:円結びIII 2023-03	—	✓	✓							
234	One円建て債券ファンドIII 2023-07 愛称:円結びIII 2023-07	—	✓	✓							

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_債券、リート

(ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)	レッド評価 (改善余地あり)	✓ グリーン・レッド評価以外	— 運用評価対象外
ファンド名/HPリンク								実績	商品	開示	詳細
235	One円建て債券ファンドIII 2023-09 愛称:円結びIII 2023-09							—	✓	✓	
236	One円建て債券ファンドIII 2024-03 愛称:円結びIII 2024-03							—	✓	✓	
237	One円建て債券ファンドIII 2024-07 愛称:円結びIII 2024-07							—	✓	✓	
238	One円建て債券ファンドIII 2024-11 愛称:円結びIII 2024-11							—	✓	✓	
239	One円建て債券ファンドIII 2024-12 愛称:円結びIII 2024-12							—	✓	✓	
240	One円建て債券ファンドIV 2025-03 愛称:円結びIV 2025-03							—	✓	✓	
241	One円建て債券ファンドV 2025-07 愛称:円結びV 2025-07							—	✓	✓	
242	Oneグローバル・ターゲット利回り債券ファンド2023-06(限定追加型)							—	✓	✓	
243	Oneグローバル・ターゲット利回り債券ファンド2023-12(限定追加型)							—	✓	✓	
244	Oneグローバル・ターゲット利回り投資適格債券ファンド2023-12(限定追加型) 愛称:イールドOne2023-12							—	✓	✓	
245	Oneニッポン債券オープン 愛称:ニッポン小町							🟢	✓	✓	■
246	One／フェルマット・CAT債券ファンド(年4回決算型)(為替ヘッジなし)							—	✓	✓	
247	One毎月分配債券ファンド 愛称:円パワーズ							✓	✓	✓	
248	PIMCOストラテジック・インカム・ファンド(為替ヘッジあり)							—	✓	✓	
249	PIMCOストラテジック・インカム・ファンド(為替ヘッジなし)							—	✓	✓	
250	USストラテジック・インカム・ファンドAコース(為替ヘッジあり) 愛称:債券王							✓	✓	✓	
251	USストラテジック・インカム・ファンドBコース(為替ヘッジなし) 愛称:債券王							✓	✓	✓	
252	ウエリントン・トータル・リターン債券ファンド(年1回決算型)(為替ヘッジあり)							—	✓	✓	
253	ウエリントン・トータル・リターン債券ファンド(年1回決算型)(為替ヘッジなし)							—	✓	✓	
254	ウエリントン・トータル・リターン債券ファンド(年4回決算型)(為替ヘッジあり)							—	✓	✓	
255	ウエリントン・トータル・リターン債券ファンド(年4回決算型)(為替ヘッジなし)							—	✓	✓	
256	債券スマートインカム戦略<リスク抑制型>(ファンドラップ)							🔴	✓	✓	■
257	みずほグローバル・ターゲット利回り債券ファンド2023-01(限定追加型)							—	✓	✓	
リート／国内											
258	AMO J-REITオープン							—	✓	✓	
259	AMO J-REITオープン(年2回決算型)							—	✓	✓	
260	AMO Jリートアクティブファンド(隔月決算型) 愛称:Jインカム(隔月決算型)							—	✓	✓	
261	AMO Jリートアクティブファンド(毎月決算型) 愛称:Jインカム							✓	✓	✓	
262	J-REITパッケージ							—	✓	✓	
263	One J-REITインデックスファンド<DC年金>							—	✓	✓	
264	One DC 国内リートインデックスファンド							—	✓	✓	
265	One ETF 東証REIT指数							—	✓	✓	
266	One J-REITアクティブオープン年1回決算コース 愛称:物件満彩(年1回決算コース)							🔴	✓	✓	■
267	One J-REITアクティブオープン毎月決算コース 愛称:物件満彩							🔴	✓	✓	■
268	One J-REITアクティブファンド(毎月決算型) 愛称:ハッピー・オーナー							✓	✓	✓	
269	One J-REITアクティブファンド<DC年金>							🔴	✓	✓	■
270	One J-REITインデックスファンド(隔月決算型) 愛称:ビルオーナー(隔月決算型)							—	✓	✓	
271	One J-REITインデックスファンド(年1回決算型) 愛称:ビルオーナー(年1回決算型)							—	✓	✓	
272	One J-REITインデックスファンド(毎月決算型) 愛称:ビルオーナー							—	✓	✓	
273	One J-REITオープン(1年決算コース) 愛称:オーナーズ・インカム1Y							✓	✓	✓	

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_リート、バランス (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)	レッド評価 (改善余地あり)	✓ グリーン・レッド評価以外	— 運用評価対象外
ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細	
274	One J-REITオープン(2カ月決算コース) 愛称:オーナーズ・インカム2M						✓	✓	✓		
275	One J-REITオープン(毎月決算コース) 愛称:オーナーズ・インカム						✓	✓	✓		
276	OneストラテジックJ-REITファンド						✓	✓	✓		
277	Jリートインデックスファンド(DC)						—	✓	✓		
278	たわらノーロード 国内リート						—	✓	✓		
279	たわらノーロード 国内リート<ラップ専用>						—	✓	✓		
280	通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型) 円コース						Ⓡ	Ⓡ	✓	■	■
281	通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型) 豪ドルコース						Ⓡ	✓	✓	■	
282	通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型) ブラジルリアルコース						✓	✓	✓		
283	通貨選択型Jリート・ファンド(毎月分配型) 米ドルコース						Ⓡ	✓	✓	■	
284	みずほ J-REIT ファンド						Ⓡ	✓	✓	■	
285	みずほ J-REIT ファンド(年1回決算型)						✓	✓	✓		
286	りそなJリート・アクティブ・オープン 愛称:日本のツボ						Ⓡ	✓	✓	■	
リート／海外											
287	One外国リートインデックスファンド<DC年金> 愛称:世界不動産物語						—	✓	✓		
288	One DC 先進国リートインデックスファンド						—	✓	✓		
289	One US-REIT オープン 愛称:ゼウス						Ⓡ	✓	✓	■	
290	One US-REIT オープン(隔月決算型) 愛称:ゼウス(隔月決算型)						—	✓	✓		
291	One US-REIT オープン(年1回決算型) 愛称:ゼウスII(年1回決算型)						Ⓡ	✓	✓	■	
292	Oneオーストラリアリートオープン 愛称:A-REIT						✓	✓	✓		
ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細	
293	One世界リートインデックスファンド(隔月分配型)						—	Ⓡ	✓	■	
294	One世界リートインデックスファンド(毎月分配型)						—	Ⓡ	✓	■	
295	OneワールドREITアクティブファンド(毎月決算型) 愛称:世界のハッピーオーナー						Ⓡ	✓	✓	■	
296	OneワールドREITアクティブファンド<DC年金> 愛称:世界のハッピー・オーナーDC						Ⓡ	✓	✓	■	
297	Oneワールド・リート・インカム・オープン(毎月決算コース) 愛称:世界家主倶楽部						Ⓡ	✓	✓	■	
298	たわらノーロード 先進国リート						—	✓	✓		
299	たわらノーロード 先進国リート<為替ヘッジあり>						—	✓	✓		
300	たわらノーロード 先進国リート(為替ヘッジなし)<ラップ専用>						—	✓	✓		
リート／内外											
301	みずほグローバル・セレクト・不動産戦略ファンド(年1回決算型) (為替ヘッジあり)						—	✓	✓		
302	みずほグローバル・セレクト・不動産戦略ファンド(年1回決算型) (為替ヘッジなし)						—	✓	✓		
303	みずほグローバル・セレクト・不動産戦略ファンド(年4回決算型) (為替ヘッジあり)						—	✓	✓		
304	みずほグローバル・セレクト・不動産戦略ファンド(年4回決算型) (為替ヘッジなし)						—	✓	✓		
バランス／国内											
305	MHAMスリーウェイオープン						✓	✓	Ⓡ	■	
306	日本3資産ファンド 安定コース 愛称:円のめぐみ						—	✓	✓		
307	日本3資産ファンド 成長コース 愛称:円のめぐみ						—	✓	✓		
308	日本3資産ファンド(年1回決算型) 愛称:円のめぐみ(年1回決算型)						—	✓	✓		
バランス／海外											
309	One世界3資産オープン(毎月決算型) 愛称:ハッピーハーモニー						—	✓	✓		

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_バランス (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)	レッド評価 (改善余地あり)	✓ グリーン・レッド評価以外	— 運用評価対象外
ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細	
310	One世界インカム・オープン(毎月決算コース) 愛称:世界三重奏						—	✓	✓		
311	ゴールドマン・サックス社債／マクロアロケーター戦略ファンド2022-09 愛称:おももりOne2022-09						—	✓	✓		
312	マクロアロケーター戦略指数参照型ゴールドマン・サックス社債ファンド2022-12 愛称:おももりOne2022-12						—	✓	✓		
313	マクロアロケーター戦略指数参照型ゴールドマン・サックス社債ファンド2023-03 愛称:おももりOne2023-03						—	✓	✓		
314	ワールドアセットバランス(基本コース) 愛称:ワールドOne						Ⓡ	✓	✓	■	
315	ワールドアセットバランス(リスク抑制コース) 愛称:ワールドOne						Ⓡ	✓	✓	■	
バランス／内外											
316	4資産分散投資・スタンダード<DC年金> 愛称:わたしへの贈りもの						—	✓	✓		
317	4資産分散投資・ミドルクラス<DC年金> 愛称:わたしへの贈りもの						—	✓	✓		
318	4資産分散投資・ハイクラス<DC年金> 愛称:わたしへの贈りもの						—	✓	✓		
319	9資産分散投資・スタンダード<DC年金> 愛称:わたしへの贈りもの						—	✓	✓		
320	One 8資産バランスファンドN<DC年金>						—	✓	✓		
321	One DC 8資産バランスファンド(新興国10) 愛称:宝船						—	✓	✓		
322	One DC 8資産バランスファンド(新興国20) 愛称:宝船						—	✓	✓		
323	One DC 8資産バランスファンド(新興国30) 愛称:宝船						—	✓	✓		
324	One DC バランス30インデックスファンド						—	✓	✓		
325	One DC バランス50インデックスファンド						—	✓	✓		
326	One DC バランス70インデックスファンド						—	✓	✓		
327	Oneバランス・ファンド<DC年金>1安定型						—	✓	✓		
328	Oneバランス・ファンド<DC年金>2安定・成長型						—	✓	✓		
329	Oneバランス・ファンド<DC年金>3成長型						—	✓	✓		
330	Oneライフサイクル・ファンド<DC年金>1安定型						—	✓	✓		
331	Oneライフサイクル・ファンド<DC年金>2安定・成長型						—	✓	✓		
332	Oneライフサイクル・ファンド<DC年金>3成長型						—	✓	✓		
333	LOSA長期保有型国際分散インデックスファンド 愛称:LOSA 投資の王道						Ⓢ	✓	✓	■	
334	MHAMライフ ナビゲーション 2030						—	✓	✓		
335	MHAMライフ ナビゲーション 2040						—	✓	✓		
336	MHAMライフ ナビゲーション 2050						—	✓	✓		
337	MHAMライフ ナビゲーション インカム						—	✓	✓		
338	One 6資産バランスファンド 愛称:六花選						—	✓	✓		
339	One 6資産バランスファンド(年1回決算型) 愛称:六花選(年1回決算型)						—	✓	✓		
340	Oneグローバル最適化バランス(安定型)<ラップ向け>						—	✓	✓		
341	Oneグローバル最適化バランス(成長型)<ラップ向け>						✓	✓	✓		
342	Oneグローバルバランス						✓	✓	✓		
343	One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク2%) 愛称:THE GRIPS 2%						Ⓡ	✓	✓	■	
344	One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク2%)<DC年金> 愛称:THE GRIPS 2%<DC年金>						Ⓡ	✓	✓	■	
345	One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク4%) 愛称:THE GRIPS 4%						Ⓡ	✓	✓	■	
346	One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク4%)<DC年金> 愛称:THE GRIPS 4%<DC年金>						✓	✓	✓		
347	One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク6%) 愛称:THE GRIPS 6%						Ⓡ	✓	✓	■	
348	One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク6%)<DC年金> 愛称:THE GRIPS 6%<DC年金>						✓	✓	✓		

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_バランス (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)	レッド評価 (改善余地あり)	✓ グリーン・レッド評価以外	— 運用評価対象外
ファンド名/HPリンク								実績	商品	開示	詳細
349	One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%) 愛称:THE GRIPS 8%						Ⓜ	Ⓜ	✓	■	■
350	One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%)<DC年金> 愛称:THE GRIPS 8%<DC年金>						Ⓜ	✓	✓	■	
351	One世界分散セレクト(Aコース) 愛称:100年ギフト						✓	✓	✓		
352	One世界分散セレクト(Bコース) 愛称:100年ギフト						✓	✓	✓		
353	One世界分散セレクト(Cコース) 愛称:100年ギフト						✓	✓	✓		
354	One ターゲットリターン・ファンド(4%コース)						Ⓜ	✓	✓	■	
355	Oneトリニティオープン(毎月決算型) 愛称:ファンド3兄弟						—	✓	✓		
356	Oneパッシブ資産分散ファンド 愛称:三本の矢						—	✓	✓		
357	インカムビルダー(年1回決算型)為替ヘッジなし						✓	✓	✓		
358	インカムビルダー(年1回決算型)限定為替ヘッジ						✓	✓	✓		
359	インカムビルダー(年1回決算型)世界通貨分散コース						✓	✓	✓		
360	インカムビルダー(毎月決算型)為替ヘッジなし						✓	✓	✓		
361	インカムビルダー(毎月決算型)限定為替ヘッジ						✓	✓	✓		
362	インカムビルダー(毎月決算型)世界通貨分散コース						✓	✓	✓		
363	尾瀬紀行						—	✓	✓		
364	クルーズコントロール						✓	✓	✓		
365	グローバル・アロケーション・オープンAコース(年1回決算・為替ヘッジなし)						Ⓜ	✓	✓	■	
366	グローバル・アロケーション・オープンBコース(年4回決算・為替ヘッジなし)						Ⓜ	✓	✓	■	
367	グローバル・アロケーション・オープンCコース(年1回決算・限定為替ヘッジ)						✓	✓	✓		
368	グローバル・アロケーション・オープンDコース(年4回決算・限定為替ヘッジ)						✓	✓	✓		
ファンド名/HPリンク								実績	商品	開示	詳細
369	グローバル・アロケーション・ファンド 毎月決算・為替ヘッジなしコース (目標払出し型) 愛称:世界街道						Ⓜ	✓	✓	■	
370	グローバル・アロケーション・ファンド 毎月決算・限定為替ヘッジコース (目標払出し型) 愛称:世界街道						✓	✓	✓		
371	グローバルドライブ(3ヵ月決算型)為替ヘッジなし						Ⓜ	✓	✓	■	
372	グローバルドライブ(3ヵ月決算型)限定為替ヘッジ						✓	✓	✓		
373	グローバルドライブ(年1回決算型)為替ヘッジなし						Ⓜ	✓	✓	■	
374	グローバルドライブ(年1回決算型)限定為替ヘッジ						✓	✓	✓		
375	コア資産形成ファンド 愛称:ビギナーズ ラップ						✓	✓	✓		
376	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2018-07						—	✓	✓		
377	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2018-09 愛称:プライムOne2018-09						—	✓	✓		
378	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2018-10 愛称:プライムOne2018-10						—	✓	✓		
379	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2018-11 愛称:プライムOne2018-11						—	✓	✓		
380	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2018-12 愛称:プライムOne2018-12						—	✓	✓		
381	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-01 愛称:プライムOne2019-01						—	✓	✓		
382	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-02 愛称:プライムOne2019-02						—	✓	✓		
383	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-03 愛称:プライムOne2019-03						—	✓	✓		
384	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-04 愛称:プライムOne2019-04						—	✓	✓		
385	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-05 愛称:プライムOne2019-05						—	✓	✓		
386	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-06 愛称:プライムOne2019-06						—	✓	✓		
387	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-07 愛称:プライムOne2019-07						—	✓	✓		
388	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-09 愛称:プライムOne2019-09						—	✓	✓		

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_バランス (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績	運用実績	商品	商品性	開示	情報開示	ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)	レッド評価 (改善余地あり)	✓ グリーン・レッド評価以外	ー 運用評価対象外	
ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細		
389	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-10 愛称:プライムOne2019-10						—	✓	✓			
390	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-11 愛称:プライムOne2019-11						—	✓	✓			
391	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2019-12 愛称:プライムOne2019-12						—	✓	✓			
392	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2020-01 愛称:プライムOne2020-01						—	✓	✓			
393	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2020-03 愛称:プライムOne2020-03						—	✓	✓			
394	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2020-05 愛称:プライムOne2020-05						—	✓	✓			
395	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2020-06 愛称:プライムOne2020-06						—	✓	✓			
396	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2020-07 愛称:プライムOne2020-07						—	✓	✓			
397	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2020-09 愛称:プライムOne2020-09						—	✓	✓			
398	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2020-10 愛称:プライムOne2020-10						—	✓	✓			
399	ゴールドマン・サックス社債／国際分散投資戦略ファンド2022-05 愛称:プライムOne2022-05						—	✓	✓			
400	世界8資産ファンド 安定コース 愛称:世界組曲						—	✓	✓			
401	世界8資産ファンド 成長コース 愛称:世界組曲						—	✓	✓			
402	世界8資産ファンド 分配コース 愛称:世界組曲						—	✓	✓			
403	世界8資産ファンド<DC年金> 愛称:世界組曲<DC年金>						—	✓	✓			
404	世界8資産リスク分散バランスファンド(目標払出し型) 愛称:しあわせのしずく						Ⓡ	✓	✓			
405	ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジあり>						✓	✓	✓			
406	ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジなし>						✓	✓	✓			
407	たわらノーロード 最適化バランス(安定型)						✓	✓	✓			
408	たわらノーロード 最適化バランス(安定成長型)						✓	✓	✓			

ファンド名/HPリンク							実績	商品	開示	詳細		
409	たわらノーロード 最適化バランス(成長型)						✓	✓	✓			
410	たわらノーロード 最適化バランス(積極型)						✓	✓	✓			
411	たわらノーロード 最適化バランス(保守型)						—	✓	✓			
412	たわらノーロード スマートグローバルバランス(安定型)						✓	✓	✓			
413	たわらノーロード スマートグローバルバランス(安定成長型)						✓	✓	✓			
414	たわらノーロード スマートグローバルバランス(成長型)						✓	✓	✓			
415	たわらノーロード スマートグローバルバランス(積極型)						✓	✓	✓			
416	たわらノーロード スマートグローバルバランス(保守型)						—	✓	✓			
417	たわらノーロード バランス(8資産均等型)						—	✓	✓			
418	たわらノーロード バランス(堅実型)						—	✓	✓			
419	たわらノーロード バランス(積極型)						—	✓	✓			
420	たわらノーロード バランス(標準型)						—	✓	✓			
421	投資のソムリエ						✓	✓	✓			
422	投資のソムリエ<DC年金>						✓	✓	✓			
423	投資のソムリエ<DC年金>リスク抑制型						✓	✓	✓			
424	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2035)						✓	✓	✓			
425	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2040)						✓	✓	✓			
426	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2045)						✓	✓	✓			
427	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2050)						✓	✓	✓			
428	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2055)						✓	✓	✓			

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンド評価一覧_バランス、その他 (ファンド名は資産と投資国別に原則、数字>アルファベット>ひらがな順で表示)

2026年3月31日時点

チェック項目	実績		商品		開示		ファンド評価結果	グリーン評価 (運用実績上位)				レッド評価 (改善余地あり)				グリーン・レッド評価以外				運用評価対象外							
	運用実績	商品性	開示	情報開示																							
ファンド名/HPリンク								実績	商品	開示	詳細	ファンド名/HPリンク								実績	商品	開示	詳細				
429	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2060)							✓	✓	✓		449	未来のわたし(ターゲット・イヤー／1988～1992年生まれ向け)							—	✓	✓					
430	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2065)							✓	✓	✓		450	未来のわたし(ターゲット・イヤー／1993～1997年生まれ向け)							—	✓	✓					
431	投資のソムリエ(ターゲット・イヤー2070)							—	✓	✓		451	未来のわたし(ターゲット・イヤー／1998～2002年生まれ向け)							—	✓	✓					
432	動的パッケージファンド<DC年金>							✓	✓	✓		452	未来のわたし(ターゲット・イヤー／2003～2007年生まれ向け)							—	✓	✓					
433	バランス物語30(安定型)							—	✓	✓		453	リスクコントロール世界資産分散ファンド 愛称:マイスタート							✓	✓	✓					
434	バランス物語50(安定・成長型)							—	✓	✓		454	リスク抑制世界8資産バランスファンド 愛称:しあわせの一步							✓	✓	✓					
435	バランス物語70(成長型)							—	✓	✓		455	リスク抑制世界8資産バランスファンド(DC) 愛称:しあわせの一步(DC)							✓	✓	✓					
								その他／海外																			
436	マスターズ・マルチアセット・ファンド(安定型) 愛称:みらいへの羅針盤(安定型)							—	✓	✓		456	DIAMコモディティパッシブ・ファンド							—	✓	✓					
437	マスターズ・マルチアセット・ファンド(積極型) 愛称:みらいへの羅針盤(積極型)							—	✓	✓		457	Oneゴールド・ファンド(為替ヘッジあり)<ラップ専用>							—	✓	✓					
438	マスターズ・マルチアセット・ファンド(バランス型) 愛称:みらいへの羅針盤(バランス型)							—	✓	✓		458	たわらノーロード ゴールド							—	✓	✓					
439	マネックス資産設計ファンド エボリューション							🟢	✓	✓	■	459	ドルマネーファンド							✓	✓	✓					
440	マネックス資産設計ファンド<育成型>							🟢	✓	✓	■	460	バンクローン・ファンド(ヘッジあり)							🔴	✓	✓	■				
441	マネックス資産設計ファンド<隔月分配型>							🟢	✓	✓	■	461	バンクローン・ファンド(ヘッジあり／年1回決算型)							🔴	✓	✓	■				
442	みらいのサイフ(アドバンスコース)							✓	✓	✓		462	バンクローン・ファンド(ヘッジなし)							🔴	✓	✓	■				
443	みらいのサイフ(エントリーコース)							✓	✓	✓		463	バンクローン・ファンド(ヘッジなし／年1回決算型)							🔴	✓	✓	■				
444	みらいのサイフ(ベーシックコース)							✓	✓	✓																	
445	未来のわたし(ターゲット・イヤー／～1972年生まれ向け)							—	✓	✓																	
446	未来のわたし(ターゲット・イヤー／1973～1977年生まれ向け)							—	✓	✓																	
447	未来のわたし(ターゲット・イヤー／1978～1982年生まれ向け)							—	✓	✓																	
448	未来のわたし(ターゲット・イヤー／1983～1987年生まれ向け)							—	✓	✓																	

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

個別ファンド評価(レッド評価)

Ⓡ 改善余地あり(レッド評価)のサマリー

評価項目 ☒ 運用実績

- 運用実績が他社の同一カテゴリーファンドと比較して下位に位置するレッド評価ファンドは合計59件
- 59件の内訳は、株式型27件、債券型5件、リート型13件、バランス型10件、その他4件

評価項目 ☒ 商品性

- 商品性の観点で改善が必要なレッド評価ファンドは合計10件
- 10件の内訳は、株式型6件、リート型3件、バランス型1件

評価項目 ☒ 情報開示

- 情報開示の観点で改善が必要なレッド評価ファンドは合計4件
- 4件の内訳は、株式型4件

<ファンド評価結果の個別ページにおけるご留意事項>

- 本資料では、同一シリーズや同一運用戦略に分類されるファンドを「同種ファンド」として扱います。
(決算頻度や分配方針、為替ヘッジの有無、通貨コースなどに違いがあっても同一の運用戦略にもとづいて運用される場合は、「同種ファンド」とします。)
- 次ページ以降ページ左上のタイトルには、同種ファンド内で一番残高が大きいファンドの名称を記載しています。
- 次ページ以降の「ファンドの概要」において記載する投資対象は、直接投資または、各ファンドが外国籍投信やマザーファンド等を通じて実質的に投資する資産を指します。
- 次ページ以降の各種データは、2026年3月31日時点のものです。

® 運用実績

One日本株式<DC年金>

ファンド名	設定日	純資産	HP
One日本株式<DC年金>	2001/11/5	31億円	

ファンドの概要

- 国内の株式を主要投資対象とし、中長期的にベンチマークである東証株価指数(配当込み)を上回る運用成果を目指します。
- 企業調査による中長期的な利益成長性の分析、株価水準などの評価を行い、投資魅力が高いと判断される銘柄を厳選して投資します。

運用実績に関する課題認識

- 金利上昇下においてバリュー優位の相場展開が継続したことで、グロース寄りの特性を有する当ファンドに対しては逆風の環境となりました。
- AI/データセンター関連など特定の領域への注目が過度に集中する展開となるなか、これらの銘柄保有はプラスに寄与しました。しかし、業績堅調かつ割安感も見られるその他保有銘柄が苦戦し、これらのパフォーマンス格差が著しかったことから超過収益の確保に苦戦しました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	66.5%	72.0%	237.6%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後も「企業調査による中長期的な利益成長性の分析、株価水準の評価などに基づき投資価値評価を行い、投資魅力が高いと判断される銘柄を厳選し投資する」ことを堅持しながら、市場での注目先の変化に応じて銘柄入れ替えを行い、パフォーマンスの改善を図ります。
- 具体的には、特定領域への注目が集中して継続する局面では、当該領域に関して割高感が見られる銘柄の売却・銘柄入替を実施します。一方、その他領域への注目の広がりに備えてリサーチに基づく候補銘柄の発掘、一部組入などの対応を取る方針です。
- これらの取り組みにより、リスクコントロールと超過収益の両立を目指し、パフォーマンスの改善に努めてまいります。

④ 運用実績

MHAM日本成長株ファンド<DC年金>

(同種ファンド数:4ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
MHAM日本成長株ファンド<DC年金>	2001/11/19	312億円	
One日本成長株オープン	1999/10/22	88億円	

ファンド名	設定日	純資産	HP
One日本の成長力α<DC年金>	2019/4/12	14億円	
きらぼし・みらい応援株式ファンド	2018/7/31	10億円	

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象とします。
- 「競争力の優位性」と「利益の成長性」を重視した個別銘柄選定を行います。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:MHAM日本成長株ファンド<DC年金>)

	3年	5年	設定来
騰落率	-0.1%	-8.3%	220.2%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

運用実績に関する課題認識

- 金利上昇局面においてバリュー株が優位となる市場環境が続いたことがあり、成長株中心の当ファンドの投資スタイルと市場環境のミスマッチが生じました。
- 主に国内市場において成長が期待された情報・通信業およびサービス業の中小型企業の株価不振も加わり、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。

改善に向けた取り組み

- 成長株投資の優位性を維持しつつ、市場環境変化への対応力を高める観点から、規模や業種の組入比率の過度な偏りを是正したポートフォリオ運営を目指します。
- 具体的には、従来以上に幅広い成長市場に着目した銘柄選択を進めることで、規模と業種の組入比率の分散の強化を図ります。また、企業の成長性や競争優位性に加え、株価水準の妥当性も重視して銘柄を選定し、投資判断の精度向上を図り、適切なリスクコントロールとリターン改善の両立を目指します。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 運用実績

Oneキャピタル・グロース・オープン

ファンド名	設定日	純資産	HP
Oneキャピタル・グロース・オープン	1999/10/28	25億円	

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象とし、中長期的にベンチマークである東証株価指数(配当込み)を上回る運用成果を目指します。
- 個別企業調査や産業調査に基づき銘柄を厳選し、組入上位10銘柄で株式組入純資産総額の30～50%程度となる集中投資を行うことを基本とします。純資産総額の50%を上限として、海外株式にも投資することがありますが、外貨建て資産は機動的に為替ヘッジを行います。

運用実績に関する課題認識

- 金利上昇局面においてバリュー株が優位となる市場環境が続いたことがあり、成長性に着目した当ファンドの投資スタイルが相対的に不利となりました。また、情報・通信業およびサービス業の中小型成長株の下落が影響し、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。
- 海外株式への投資は5年の期間ではプラス寄与となりましたが、2025年度はハイテク関連株が下落した影響を受けました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	33.8%	33.1%	106.5%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 中小型成長株の株価変動が影響した点を踏まえ、国内株式の規模の偏りや、海外株式も含めたファンド全体の業種の偏りを是正したポートフォリオ運営を目指します。
- 具体的には、国内株式の中小型株への依存度を抑制し、大型成長株も含む幅広い成長市場へ投資先の拡大を図ります。これにより、業種配分の是正や投資対象のバランスの改善を目指します。海外株式については、ハイテク関連以外の成長分野にも注目し、日本企業を上回る投資魅力度を有する企業への選別投資を行います。
- 銘柄選定においては、成長性に加え収益拡大の持続性や割安さを重視した精査を行い、継続的な入替を通じてパフォーマンスの改善を目指します。

④ 運用実績

One新興企業日本株ファンド

(同種ファンド数:2ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
One新興企業日本株ファンド	2013/5/21	85億円	
新興企業日本株ファンド(資産成長型)	2018/5/18	12億円	

ファンドの概要

- 国内の新興企業株式を主要投資対象とします。
- 国内の優れた経営者のもとで、新しいビジネスモデルと経営戦略から付加価値の高い新商品を生み出す“新興企業”を選定し、トップダウン・アプローチも活用して、相場局面を考慮した業種・銘柄選択とその投資比率を決定します。

運用実績に関する課題認識

- 市場ではスタイル別にバリュー優位・グロース劣位の傾向が顕著となり、加えて既存ビジネスが人工知能で代替される懸念が台頭し、ソフトウェア関連やSaaS関連が一括りに売られる局面となりました。
- 当ファンドは情報・通信業やサービス業の組入れが多いこと、新たな事業領域への展開を図る新興企業への投資等がパフォーマンスの重荷となりました。このような市場環境のもとでは、当ファンドの強みである中長期的な成長性に着目した銘柄選択が、「運用実績」の評価において十分な成果につながりませんでした。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:One新興企業日本株ファンド)

	3年	5年	設定来
騰落率	16.9%	-11.0%	104.4%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 法人、個人、いずれの領域にも関心を払い、課題解決を図る事業を展開する企業、価値創造に挑む事業を展開する企業は、いずれもポジティブに評価します。また、社会課題の解決に挑む経営者や組織・テクノロジーを強みとする新興企業への投資を継続し、市場環境の変化によって投資機会が拡大する局面では、短期的な利益より長期の企業価値創出力を重視する方針です。
- 運用スタイルおよびファンド特性を十分に考慮し、検証と見直しを通じて運用成果の改善を目指します。

® 運用実績

One新興成長株オープン

ファンド名	設定日	純資産	HP
One新興成長株オープン	2000/2/25	251億円	

ファンドの概要

- 国内の高成長が期待できる「新興企業」*の株式を中心に投資をし、中長期的にベンチマークである東証株価指数(配当込み)を上回る運用成果を目指します。
- NASDAQなど主要先進国の新興企業向け市場の株式を中心に、外貨建て資産について、純資産総額の30%を上限として投資する場合があります。
- 外貨建資産については、機動的な為替ヘッジにより、為替変動リスクの低減に努めます。

*取得時において創業25年以下または上場後10年以下の企業を目安とします。

運用実績に関する課題認識

- 金利上昇局面においてバリュー株が優位となる市場環境の中、当ファンドは成長株および中小型株への投資比率が相対的に高く、こうした市場環境では不利な運用スタイルとなりました。特に、情報・通信業およびサービス業を中心とする中小型成長株の一部で株価調整が顕著となり、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*¹と運用実績評価*²

	3年	5年	設定来
騰落率	-6.5%	-12.0%	248.8%
運用実績評価	下位	下位	—

*¹ 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*² 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 新興企業・成長株・中小型株投資の優位性を維持しつつ、市場環境の変化による影響を踏まえ、投資スタイルにおける過度な偏りを是正したポートフォリオ運営を目指します。
- 具体的には、従来以上に幅広い成長市場に目を向け銘柄選択を進めることで、業種分散の強化を図ります。また、銘柄選定においては成長性や競争優位性のみならず、株価バリュエーションも重視し、投資判断の精度向上を図り、適切なリスクコントロールとリターン改善の両立を目指します。

④ 運用実績

One成長株オープン

ファンド名	設定日	純資産	HP
One成長株オープン	2000/2/25	47億円	

ファンドの概要

- 国内の中小型株を中心に投資しつつ、成長性の高い大型株も投資対象とします。
- 様々なファンダメンタルズ情報をベースに、特にビジネスモデルや経営者の資質等の観点から、組入銘柄を選定します。

運用実績に関する課題認識

- 市場ではスタイル別にバリュー優位・グロース劣位の傾向が顕著となり、加えて既存ビジネスが人工知能で代替される懸念が台頭し、ソフトウェア関連やSaaS関連が一括りに売られる局面となりました。
- 当ファンドは情報・通信業やサービス業の組入れが多いことから、こうした相場環境がパフォーマンスの重荷となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	13.9%	4.3%	149.3%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 法人、個人、いずれの領域にも関心を払い、課題解決を図る事業、価値創造に挑む事業、いずれもポジティブに評価します。また、社会課題の解決に挑む経営者や組織・テクノロジーを強みとする新興企業への投資を継続し、市場環境の変化によって投資機会が拡大する局面では、短期的な利益より長期の企業価値創出力を重視します。
- 運用スタイルおよびファンド特性を十分に考慮し、検証と見直しを通じて運用成果の改善を目指します。

® 運用実績

海外消費関連日本株ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
海外消費関連日本株ファンド	2013/5/31	47億円	

ファンドの概要

- 国内の株式を主要投資対象とします。
- 日本独自の高付加価値商品・サービスを提供して、海外市場での消費の拡大の恩恵を受けると考えられる企業や、訪日外国人の消費拡大で収益の増加が期待される企業の株式に投資を行います。

運用実績に関する課題認識

- 国内金利上昇などを受けたバリュー株優位の市場環境に加え、生成AIへの期待を背景としたハイテク株への資金集中、ならびに市場の値動きの影響を受けやすく、足元で株価が上昇している銘柄が買われる一方、その対極としてIT・コンテンツなど一部のAI代替懸念業種や市場全体の動きに左右されにくい内需関連業種が軟調に推移しました。
- こういった中、当ファンドはテーマ型ファンドとして消費・コンテンツ関連銘柄への投資比率が高く、かつ中小型グロース寄りの特性を有していることが、パフォーマンスの押し下げ要因となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	30.0%	33.8%	266.2%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後も「世界で評価される日本の製品・サービス・コンテンツ(クールジャパン)」という中長期の投資テーマに沿った運用を堅持します。
- 一方で、当期間のように特定の投資スタイルやテーマが市場を大きく主導する局面では相対パフォーマンスが悪化するリスクも踏まえ、テーマ関連銘柄の選別を強化しつつ、スタイル面の過度な偏りや集中リスクを抑制する方針です。
- 中長期の成長性に比して割安と判断される銘柄を厳選して組み入れ、ポートフォリオ全体のバランス調整を適宜行うことで、短期的な市場変動への対応力を高め、運用成果の改善を図ります。

④ 運用実績

日本厳選中小型株ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
日本厳選中小型株ファンド	2016/12/9	82億円	

ファンドの概要

- 国内の中小型株式を主要投資対象とします。
- 銘柄選定にあたっては、主として経営戦略やビジネスモデルによって新たな顧客や市場を創造できると考えられる企業に着目し、今後高い利益成長が期待できると考えられる銘柄を厳選して投資を行います。

運用実績に関する課題認識

- 市場ではスタイル別にバリュー優位・グロース劣位、ならびに大型株優位・中小型株劣位の傾向が顕著となったことに加え、既存ビジネスが人工知能によって代替されるとの懸念が台頭し、ソフトウェア関連やSaaS関連をはじめとする成長株が売られる局面となりました。
- 当ファンドは情報・通信業やサービス業を中心に、中長期的な成長が期待される中小型企業への投資を行っていることから、こうした相場環境がパフォーマンスの重荷となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	22.2%	-3.4%	44.2%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後も、株式市場を活かして価値を創造する事業家に注目してまいります。
- 法人、個人、いずれの領域にも関心を払い、課題解決を図る事業、価値創造に挑む事業、いずれもポジティブに評価します。また、社会課題の解決に挑む経営者や組織・テクノロジーを強みとする新興企業への投資を継続し、市場環境の変化によって投資機会が拡大する局面では、短期的な利益より長期の企業価値創出力を重視します。
- 運用スタイルおよびファンド特性を十分に考慮し、検証と見直しを通じて運用成果の改善を目指します。

® 運用実績

マネックス・日本成長株ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
マネックス・日本成長株ファンド	2000/7/26	29億円	

ファンドの概要

- 国内の“インターネット関連企業の株式”*を中心に投資を行います。
- 個別企業の投資価値判断を行い、投資魅力が高いと判断される銘柄を厳選します。
- 純資産総額の30%の範囲内で外貨建資産への投資を行うことがありますが、機動的な為替ヘッジにより、為替変動リスクの低減に努めます。

*インターネットの各種インフラを構築する企業およびインターネットをビジネスのインフラとして活用する企業

運用実績に関する課題認識

- 金利上昇局面においてバリュー株が優位となる市場環境の中、当ファンドでは成長性の高いインターネット関連企業の銘柄への投資比率が相対的に高く、こうした市場環境では不利な運用スタイルとなりました。なかでも、インターネット関連企業は情報・通信業に属する銘柄が多く、同業種においても中小型成長株の株価調整が顕著となり、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*¹と運用実績評価*²

	3年	5年	設定来
騰落率	-6.3%	-11.1%	281.2%
運用実績評価	下位	下位	—

*¹ 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*² 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- インターネット関連企業に期待される成長性や優位性に基づいたリターンの獲得方針を維持しつつ、市場環境の変化による影響を踏まえ、投資スタイルにおける過度な偏りを是正したポートフォリオ運営を目指します。
- 具体的には、インターネット活用領域の多様化に着目した幅広い銘柄選択を進めることで、業種分散の強化を図ります。また、銘柄選定においては株価バリュエーションも重視し、投資判断の精度向上を図り、適切なリスクコントロールとリターン改善の両立を目指します。

® 運用実績

未来変革日本株ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
未来変革日本株ファンド	2016/1/29	94億円	

ファンドの概要

- 各種産業において、未来を変革すると考えられるイノベーションの創出やその支援を行うと考えられる国内の企業の株式を主要投資対象とします。
- 銘柄選定にあたっては、急速なビジネスモデルの変革の影響をより直接的に受けると考えられる企業に着目し、高い成長性が期待できる銘柄を中心に投資します。

運用実績に関する課題認識

- 市場ではスタイル別にバリュー優位・グロース劣位の傾向が顕著となったことに加え、人工知能関連投資への期待が一部の大型ハイテク企業に集中する一方、既存ビジネスが人工知能によって代替される懸念が台頭し、ソフトウェア関連やSaaS関連銘柄が一括して売られる局面となりました。
- 当ファンドは、AIやIoT等のテクノロジー活用を通じて産業構造の変化を取り込む企業や、将来的な生産性向上・収益力向上が期待される企業への投資を行っていることから、こうした市場環境がパフォーマンスの重荷となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	14.9%	-13.3%	66.4%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 法人、個人、いずれの領域にも関心を払い、課題解決を図る事業、価値創造に挑む事業、いずれもポジティブに評価します。また、社会課題の解決に挑む経営者や組織・テクノロジーを強みとする新興企業への投資を継続し、市場環境の変化によって投資機会が拡大する局面では、短期的な利益より長期の企業価値創出力を重視します。
- 運用スタイルおよびファンド特性を十分に考慮し、検証と見直しを通じて運用成果の改善を目指します。

® 運用実績

Oneサザンアジア株式ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
Oneサザンアジア株式ファンド	2010/2/26	17億円	

ファンドの概要

- 中国*1ならびに東南アジア*2のサービス分野に関連する企業の株式に投資します。
- 中国の株式はアセットマネジメントOne株式会社が運用を行い、東南アジアの株式は東京海上アセットマネジメント株式会社が運用を行います。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*1 主として香港、マカオおよび中国南部の広東省、海南省、福建省などの華南地域

*2 シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムなど

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	22.8%	14.0%	138.8%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

運用実績に関する課題認識

- 当ファンドは、中国南部と東南アジアへ投資を行ってきましたが、アジア株式市場では半導体株を中心に韓国・台湾市場が大きく上昇した一方で、投資対象地域のパフォーマンスが劣後しました。
- 業種については、サービス関連分野の企業に投資を行ってきましたが、東南アジアにおいては銀行株が大きく上昇した一方で、重点投資していた消費等の企業のパフォーマンスが劣後しました。

改善に向けた取り組み

- 今後は、中国南部・東南アジアおよびサービス関連分野の企業への投資は継続しつつ、ポートフォリオの調整を行います。
- 具体的には、これまでよりも短期的な業績見通しや株価の上昇余地を重視し、金融・メディア・ヘルスケアといった業種などにも投資対象を広げる方針です。また、各市場における銘柄選定においては、企業の成長性だけでなく、市場・経済動向も勘案して、投資候補を精査及び入替を実施する方針です。
- これらの取り組みにより、パフォーマンスの改善に努めてまいります。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 運用実績

Oneジャナス米国中小型株式ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
Oneジャナス米国中小型株式ファンド	2014/8/15	28億円	

ファンドの概要

- 米国の中小型株式を主要投資対象とします。
- マザーファンドの運用にあたっては、ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・US・エルエルシーに株式等の運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- AI関連銘柄を中心に一部の大型ハイテク株が上昇する市場環境のもと、中小型銘柄のパフォーマンスが相対的に劣後する状況が続きました。
- 株式市場の上昇局面において、適正な株価水準を重視しつつ、安定したキャッシュフロー創出力および持続可能な成長性を持つ高クオリティ銘柄への投資を重視したことが、パフォーマンスの出遅れ要因となりました。特に直近1年は、収益性が低く、創業期から成長期段階にあるような投機的な銘柄に買いが集中する局面が続き、相対的に不利な環境となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	42.8%	49.2%	245.4%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 徹底したファンダメンタル分析に基づき、差別化されたビジネスモデルや持続可能な競争優位性、規律ある経営陣などを有する成長企業への投資を継続します。加えて、市場の調整局面を活用し、より成長性の高い銘柄への投資機会を見出し、上昇相場への耐性を強化する方針です。足元ではインフレの高止まりが意識されるなか、強固な財務基盤や高い資本利益率を持つ高クオリティ銘柄の選好が奏功し、パフォーマンスは改善傾向にあります。今後も現在の取り組みを継続し、パフォーマンス向上をめざしていきます。

® 運用実績

ファンドスミス・グローバル・エクイティ・ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
ファンドスミス・グローバル・エクイティ・ファンド	2021/12/22	2,468億円	

ファンドの概要

- 世界の株式に投資します。
- 業種・流動性・財務指標を用いて投資対象銘柄を絞り込み、資本効率、ビジネスモデル、財務バランス、事業環境の変化への対応の観点などから優れていると判断される企業を厳選します。
- 当ファンドが投資するファンドの運用は、ファンドスミス・インベストメント・サービシーズ・リミテッドが行います。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 大型テクノロジー株が市場を牽引する相場展開の中で、生活必需品やヘルスケアを中心とした安定グロースの運用が、相対的に不利となりました。また昨年度は、トランプ政権の関税政策等を背景に、生活必需品や一般消費財を含む消費関連株が市場全体に対して劣後し、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。加えて、銘柄選択面でも過去にパフォーマンスに大きくプラス寄与した銘柄の下落が影響しました。具体的には、ヘルスケアに属するNovo Nordiskの下落がマイナス要因となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	26.0%	—	27.3%
運用実績評価	下位	—	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 運用の基本方針を維持しつつ、パフォーマンス向上に向けた検証・見直しを継続します。
- 具体的には、リサーチ・カバレッジの拡充、環境に応じたより機動的な売買を実行します。一方で、長期的な投資家利益を第一に考え、売買回転率の極端な上昇を抑制します。これらの取り組みにより、クオリティ企業への集中投資という基本スタイルを維持しながら、マーケットのモメンタムに左右されにくい運用を目指します。
- 運用における規律と柔軟性を両立させることで、相対パフォーマンスの改善に取り組んでまいります。

④ 運用実績

米国割安株ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
米国割安株ファンド	2014/3/19	32億円	

ファンドの概要

- 米国株式の中から、割安と判断される株式(バリュー株)へ投資します。
- 運用にあたっては、GAMCO Asset Management Inc.の投資助言を活用します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 大型テクノロジー株を中心とするグロース株が株式市場の上昇を牽引する局面が続き、指数全体のリターンが特定セクターに集中する傾向が見られました。そのような市場環境下において、当ファンドが中長期のカタリスト(株価上昇のきっかけ)の顕在化を見込み、生活必需品セクターおよび資本財セクターの銘柄を一定比率で保有していたことが、結果として上昇局面での相対的な追従を抑える要因となりました。一方で、防衛関連銘柄や情報技術関連銘柄の上昇はプラス寄与しており、要因が混在する中でパフォーマンスに影響が残りました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	49.1%	63.0%	176.5%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後は、リサーチの幅を広げ、投資アイデアの取り込みを強化します。足元ではグロース株主導の局面が続き、当ファンドのようなバリュー株中心の運用では、非保有／アンダーウェイトとなりやすい銘柄群がパフォーマンスに影響を与えました。
- この環境認識を踏まえ、従来の得意領域に限定しない形で、投資機会の探索と検証プロセスを強化していきます。具体的には、カバレッジの拡充や企業訪問の増加に加え、他戦略チームのリサーチも積極的に活用し、情報技術等これまで相対的に手薄だった領域の検証を深める方針です。あわせて、M&A等のカタリストの実現可能性と時間軸を再点検し、確信度に基づく銘柄選択の精度向上を図ります。

® 運用実績

マシュース・アジア株式ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
マシュース・アジア株式ファンド	2018/5/24	21億円	

ファンドの概要

- アジア地域(除く日本)に関係する株式*に投資します。
- 実質的な運用は、マシュース・インターナショナル・キャピタル・マネジメント・エルエルシーが行います。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*アジアに所在する企業、アジアの取引所の上場企業、売上や利益、保有資産などで50%以上をアジア地域が占める企業またはアジア各国の政府関連企業などを含みます。

運用実績に関する課題認識

- アジア株式市場、特に中国市場では、規制強化や景気対策、不動産政策、米中対立などの政策要因が株価を大きく左右する環境が続き、ファンダメンタルズ分析が効きにくい環境で、中国を始めとした主要市場で銘柄選択効果がマイナスに働き、相対的な成績が悪化しました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	45.6%	31.9%	74.5%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 引き続きファンダメンタルズ分析を中核としつつ、市場環境や政策変化への対応力を高めることで、運用成果の改善を目指します。
- 2024年には新CIOを外部から誘致し、2025年には創業者でありファンド創設期にポートフォリオマネジャーとして活躍したHeadley氏を運用チームに復帰させるなど、抜本的な運用チームの入れ替えを進めています。運用チームの強化とリスク管理の厳格化、高確信銘柄のポジション管理などにより、リスクコントロールと超過収益の改善を両立し、パフォーマンスの改善に努める方針です。

® 運用実績

MHAM株式オープン

ファンド名	設定日	純資産	HP
MHAM株式オープン	1976/9/17	155億円	

ファンドの概要

- 国内の優良成長株を中心に投資しつつ、純資産総額の30%を上限に国外の株式にも投資します。
- 株式の機動的な売買による収益の追求と、銘柄の選択を重視した運用を行います。
- 外貨建資産に対しては、為替変動リスクの低減を図るために為替ヘッジを活用します。

運用実績に関する課題認識

- 金利上昇局面においてバリュー株が優位となる市場環境が続いたことがあり、成長性に着目した当ファンドの投資スタイルが相対的に不利となりました。また、情報・通信業およびサービス業の中小型成長株の下落が影響し、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。
- 海外株式への投資は3年・5年の期間ではプラス寄与となりましたが、2025年度はハイテク関連株が下落した影響を受けました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	1999/1/4～
騰落率	57.8%	65.8%	650.2%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 中小型成長株の株価変動が影響した点を踏まえ、国内株式の規模の偏りや、海外株式も含めたファンド全体の業種の偏りを是正したポートフォリオ運営を目指します。
- 具体的には、国内株式の中小型株への依存度を抑制し、大型成長株も含む幅広い成長市場へ投資先の拡大を図ります。これにより、業種配分の是正や投資対象のバランスの改善を目指します。海外株式については、ハイテク関連以外の成長分野にも注目し、日本企業を上回る投資魅力度を有する企業への選別投資を行います。
- 銘柄選定においては、成長性に加え収益拡大の持続性や割安さを重視した精査を行い、継続的な入替を通じてパフォーマンスの改善を目指します。

® 運用実績

Oneグローバル中小型長期成長株ファンド<DC年金>

(同種ファンド数:2ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
Oneグローバル中小型長期成長株ファンド<DC年金>	2019/5/30	29億円	
Oneグローバル中小型長期成長株ファンド	2020/8/17	11億円	

ファンドの概要

- 世界の中小型株式に投資します。
- 外部環境の変化に高い耐性を持ち、自助努力による長期的な成長を続けることが期待できる“ハイクオリティ”企業に着目します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 当該期間中の相場環境は、2022年以降極端なバリュー銘柄相場を経て、2023年以降はマグニフィセント7に代表される大型グロース銘柄、AI関連銘柄主導での上昇相場と、特定のスタイルやテーマに資金が集中する傾向が続き、クオリティの高い中小型のグロース銘柄を厳選する当戦略にとって逆風が継続しました。
- 特に2025年度は、AI関連への集中が加速する中、組み入れていたソフトウェア・ITサービス銘柄が、AIによる潜在的なビジネスリスクへの懸念の高まりにより大きく下落したことも、ファンドパフォーマンスの劣後の一因となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:Oneグローバル中小型長期成長株ファンド<DC年金>)

	3年	5年	設定来
騰落率	29.0%	30.6%	93.4%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後は、市場で注目されるテーマとの極端なミスマッチを抑えつつ、個別銘柄選択主導での改善を進めます。
- 具体的には、2025年度において大きなパフォーマンス劣後要因となった、AIによる潜在的なビジネスリスクへの懸念が高まったソフトウェア・ITサービス関連銘柄などについて評価を見直し、大幅なウェイト削減を実施しました。今後も一部テーマへの極端な資金の集中が継続するリスクを考慮し、相場環境とポートフォリオとの乖離を適切に管理しながら、機動的な調整を行ってまいります。
- 相場環境とポートフォリオの大幅な乖離を防ぐことで、当戦略の超過収益の源泉である個別銘柄選択能力が、ファンドパフォーマンスの向上により効果的に結び付くよう改善に努めてまいります。

④ 運用実績

シュローダー・サステナブル・世界株ファンド(為替ヘッジなし)

(同種ファンド数:2ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
シュローダー・サステナブル・世界株ファンド(為替ヘッジなし)	2023/2/27	8億円	
シュローダー・サステナブル・世界株ファンド(限定為替ヘッジ)	2023/2/27	0.3億円	

ファンドの概要

- 世界の株式に投資します。
- 企業の持続的な成長が期待されるサステナブルな銘柄を厳選します。
- 実質的な運用は、シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッドが行います。
- 「限定為替ヘッジあり」について、外貨建資産に対しては、為替変動リスクの低減を図るために為替ヘッジを活用します。

運用実績に関する課題認識

- 2023年度はコロナ需要の反動や在庫調整の影響からヘルスケア関連銘柄が低迷したほか、AI関連銘柄の上昇を十分に取り込めませんでした。2024年度は、保有していた半導体製造装置や再生可能エネルギー関連銘柄が軟調に推移し、市場をけん引した大型テクノロジー銘柄の非保有も影響しました。
- 2025年度もAI・データセンター関連銘柄への資金流入が続き、半導体関連銘柄の保有比率が低かったことに加え、医療保険やソフトウェア関連銘柄の下落が重荷となりました。結果として、市場の上昇が特定のテーマや銘柄に集中する環境への対応と、銘柄の選択が課題となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:シュローダー・サステナブル・世界株ファンド(為替ヘッジなし))

	3年	5年	設定来
騰落率	51.7%	—	53.5%
運用実績評価	下位	—	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- パフォーマンス改善に向けて、以下の3つの取り組みを進めています。
 - ①当戦略は個別銘柄選択を超過収益の源泉とする戦略ですが、リスク管理の観点からこれまで相対的に比率が高かった欧州と低かった米国の配分差を縮小し、地域配分による影響を抑える意向です。
 - ②投資候補銘柄の調査対象を拡大し、AIやデジタル化の恩恵を受ける企業を含め、幅広い成長機会を取り込める体制構築に努めました。その結果、NVIDIAやAppleなど市場を代表する企業の組入れも進めています。
 - ③投資判断やリスク管理を一段と強化し、事業環境の変化や想定外の悪材料が発生した際には、より迅速かつ柔軟に対応します。

® 運用実績

新興国ハイクオリティ成長株式ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
新興国ハイクオリティ成長株式ファンド	2017/12/11	528億円	

ファンドの概要

- 新興国の株式または事業活動の主要な部分を新興国で行うと判断される企業の株式に投資します。
- ボトムアップ・アプローチを基本に、質の高いと考えられる企業の中から、株価が割安と判断される銘柄を厳選します。
- モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インク*に運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクは、その委託を受けた運用の指図に関する権限の一部(株式等の投資判断の一部)を、モルガン・スタンレー・アジア・リミテッドおよびモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・カンパニーに再委託します。

運用実績に関する課題認識

- 超大型株やAI・データセンター関連銘柄へ資金が集中する中で、当ファンドが保有する持続的な利益成長が期待されるハイクオリティ企業のパフォーマンスが相対的に劣後しました。また、中国の一般消費財・サービスや情報技術セクターに属する一部のインターネット関連株が、中国景気の減速やAI脅威論、競争激化などを背景に株価が低迷した事もマイナス要因となりました。加えて、足元では韓国・台湾の大型半導体株が市場を牽引する中、2025年末まであまり保有していなかった点もマイナス寄与しました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	34.1%	-0.3%	89.4%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後は足元の市場動向を踏まえ、組入銘柄の保有継続の妥当性を検証しつつ、運用を行っていく方針です。
- 具体的には、市場環境が急激に変化する局面において、その局面に合わせた投資アイデアの創出が行われているか、意思決定が機動的に行われているか等を、ファンドマネジャーとの定期的なミーティングを通じてモニタリングします。
- 足元では韓国・台湾の半導体株への投資拡大が奏功し、パフォーマンスは改善傾向にあります。また、AI時代の進展により、「クオリティ」の定義を柔軟に見直し、「良いものを安く買う」という原則を維持しつつ、投資を行う方針です。
- こうした取り組みにより、環境変化に対する耐性を高め、パフォーマンスの改善を目指します。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 運用実績

世界eコマース関連株式オープン

ファンド名	設定日	純資産	HP
世界eコマース関連株式オープン	2017/9/7	380億円	

ファンドの概要

- 世界各国のeコマース(電子商取引)*をはじめとした、新たな消費関連サービスの成長から恩恵を受けると判断される消費関連企業の株式を主要投資対象とします。
- 銘柄選定にあたっては、アセットマネジメントOne U.S.A.・インクの投資助言を活用します。
- 外貨建て資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*当ファンドでは、インターネット等を通じて商品やサービスの売買を行うことをeコマース(電子商取引)といいます

運用実績に関する課題認識

- 当ファンドは、eコマースから恩恵を受ける企業へ投資を行ってきましたが、世界株式市場ではAI関連・半導体株を中心に大きく上昇する展開となりました。当ファンドではそうした業種・銘柄群を非保有であったことに加え、eコマース関連銘柄はAI技術の進展に伴う競争環境の変化への懸念が意識され株価が下落する傾向となり、パフォーマンスの重石となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	35.8%	9.6%	133.5%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後はeコマースから恩恵を受ける企業への投資は継続しつつ、ポートフォリオの調整を行います。
- 具体的には、AIをはじめとした影響の大きい株式市場のテーマに対してポートフォリオでの柔軟な対応を行いながら、銘柄選択においては投資対象業種や地域を広げ、新規投資アイデアを積極的に投入し、入替を進めます。
- これらの取り組みにより、パフォーマンスの改善に努めてまいります。

® 運用実績

先進国ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジあり)

ファンド名	設定日	純資産	HP
先進国ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジあり)	2019/1/31	44億円	

ファンドの概要

- 先進国の株式または事業活動の主要な部分を先進国で行うと判断される企業の株式に投資します。
- ボトムアップ・アプローチを基本に、質の高いと考えられる企業の中から、株価が割安と判断される銘柄を厳選します。
- モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インク*に運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- 外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行います。

*モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクは、その委託を受けた運用の指図に関する権限の一部(株式等の投資判断の一部)を、モルガン・スタンレー・アジア・リミテッドおよびモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・カンパニーに再委託します。

運用実績に関する課題認識

- 超大型株やAI・データセンター関連銘柄へ資金が集中する中で、当ファンドが保有する長期的な利益成長が期待されるハイクオリティ企業のパフォーマンスが相対的に劣後しました。また、一般消費財・サービスや情報技術セクターにおいて、インターネット関連株がAI脅威論、競争激化などを背景に株価が低迷した事や、ブランド関連銘柄が中国需要の低迷などを受けて株価が低調に推移したことなどがマイナス要因となりました。足元では大型半導体株が市場を牽引する中、あまり保有していなかった点もマイナス寄与しました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	18.7%	-9.5%	49.6%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後は足元の市場動向を踏まえ、組入銘柄の保有継続の妥当性を検証しつつ、運用を行っていく方針です。
- 具体的には、市場環境が急激に変化する局面において、その局面に合わせた投資アイデアの創出が行われているか、意思決定が機動的に行われているか等を、ファンドマネジャーとの定期的なミーティングを通じてモニタリングします。インターネット関連株やブランド品株についてはAIに対して抵抗力のある企業と考えています。また、AI時代の進展により、「クオリティ」の定義を柔軟に見直し、「良いものを安く買う」という原則を維持しつつ、投資を行う方針です。
- こうした取り組みにより、環境変化に対する耐性を高め、パフォーマンスの改善を目指します。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

⑤ 運用実績

グローバル・ボンド・ポート(Dコース)

(同種ファンド数:4ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
グローバル・ボンド・ポート(Dコース)	1998/12/10	140億円	
グローバル・ボンド・ポート(Cコース)	1998/12/10	134億円	

ファンド名	設定日	純資産	HP
グローバル・ボンド・ポート 毎月決算コース(為替ヘッジなし)	2002/7/19	32億円	
Oneグローバル・ボンド・ポート 毎月決算コース2	2003/1/29	22億円	

ファンドの概要

- 世界主要国(除く日本)の公社債へ投資し、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース、為替ヘッジなしまたは為替ヘッジあり)を上回る運用成果を目指します。
- 原則として高格付(A格以上)の債券に投資します。インデックス構成国の国債は、格付基準にかかわらず投資可能とします。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 世界的に金利が上昇(債券価格が下落)した2022-2024年度を主因として、ファンドの運用実績はベンチマーク対比で劣後する結果となりました。
- インフレの進行と各国中央銀行による利上げによって、金利が上昇し、為替市場では米ドルの堅調さが続いた中、デュレーション戦略の修正が遅れたこと、米ドル売りを軸とした通貨戦略等が要因となり、運用実績が低迷しました。また、中国国債がベンチマークに加わって相対的に安定的な値動きを示したことから、当該国債の非保有戦略もベンチマーク対比で運用実績を低迷させる要因となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:グローバル・ボンド・ポート(Dコース))

	3年	5年	設定来
騰落率	25.7%	22.4%	128.3%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 各国の金融政策や財政政策がグローバル経済の成長やインフレ動向に与える影響は従来より早く、より複雑化しており、さらに金融市場が循環的な先行きを織込む動きが早期化している中、中長期的なファンダメンタルズ分析の深化・精緻化に重点を置きすぎず、短期的な市場の値動きに対する分析の強化に取り組みます。
- 投資分析を反映したリスク量の調整を、機動的かつ柔軟に実施し、環境変化に対する修正を早期化するリスクコントロールと、中長期的な超過収益の獲得の両立を目指し、運用実績の改善に努めます。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 運用実績

債券スマートインカム戦略<リスク抑制型>(ファンドラップ)

ファンド名	設定日	純資産	HP
債券スマートインカム戦略<リスク抑制型>(ファンドラップ)	2019/6/28	11億円	

ファンドの概要

- 日本国債およびAA-格(債券格付けまたは発行体格付け)以上の日本を除くFTSE世界国債インデックス構成国の国債に投資することで、インカムゲインおよびキャピタルゲインの獲得を目指します。
- 金利シグナル戦略に基づき、日次で金利環境を判定し、金利上昇時における基準価額の下落の抑制を目指します。
- 外貨建資産に対しては、原則として為替ヘッジを行います。

運用実績に関する課題認識

- 2022年から2024年にかけて海外各国で逆イールド(短期金利が長期金利を上回る状態)が続き、為替ヘッジ後の利回りがマイナスになるなど、インカム(利息収入)に基づく戦略が機能しにくい環境となりました。また、信用リスクの高い(格付けの低い)債券のパフォーマンスが相対的に良好となる局面が続いたことから、当ファンドの高格付け中心の投資特性も逆風となりました。金利シグナル戦略は、債券下落局面では一定の下落抑制効果を発揮したものの、その後の債券上昇局面では一部の収益を取り逃す結果となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	-7.3%	-20.6%	-23.3%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後は、インカムに基づいた資産配分と金利シグナル戦略というファンドの骨格を維持しつつ、運用モデルの改良効果の検証と追加改良の検討を行います。
- 具体的には、国内債券シグナルモデルを2025年7月に改良(シグナル算出の際に、新たに「ニュースセンチメント」と「投資家のポジション」の情報を追加する改良)した効果をモニタリングします。また、債券の利回りが上昇し運用環境が改善する中、当ファンドで着目している「インカム水準」の有効性を高める改良を検討します。
- こうした検証・検討を通じて、リスク抑制とリターン改善の両立を図り、パフォーマンス向上につなげてまいります。

® 運用実績

One J-REITアクティブオープン毎月決算コース

(同種ファンド数:3ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
One J-REITアクティブオープン毎月決算コース	2004/6/4	115億円	
One J-REITアクティブオープン年1回決算コース	2013/8/1	33億円	
One J-REITアクティブファンド<DC年金>	2004/12/30	26億円	

ファンドの概要

- 国内リートを主要投資対象とし、ベンチマークである東証リート指数(配当込み)を上回る投資成果を目指します。
- 不動産市況および国内リート個別銘柄の調査・分析に基づく銘柄選択により、付加価値の獲得を追求します。

運用実績に関する課題認識

- 配当金と資産価値の上昇、投資口価格の相対的な割安感に着目して投資を行いました。銘柄選択効果がセクター間で分かれ、オフィスや商業を中心とする銘柄選択はプラスに寄与したものの、産業施設や住居の銘柄選択がマイナスとなり、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:One J-REITアクティブオープン毎月決算コース)

	3年	5年	設定来
騰落率	13.2%	5.1%	255.3%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 当ファンドは、配当の水準・安定性及び資産価値の成長、リーートの価格水準を重視した銘柄選択により、パフォーマンス改善を図ります。
- 具体的には、カタリスト(株価上昇のきっかけ)発掘と実現に向けて、リーートの運用会社との対話を主軸に、銘柄選択で収益の獲得を目指します。
- 不動産市況やマーケット局面の変化を捉え、銘柄及び業種の保有比率などポートフォリオのリスクコントロールを実施します。
- リーートの運用会社との継続的な対話を強化し、キャッシュフローに着目した独自の調査・分析を深化させることで、収益・配当予測やJリーートの価格水準評価の精度向上に努め、銘柄選別と入替を行う方針です。

② 運用実績

通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型)米ドルコース

(同種ファンド数:3ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型) 米ドルコース	2011/1/6	37億円	
通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型) 豪ドルコース	2011/1/6	16億円	
通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型) 円コース	2011/1/6	15億円	

ファンドの概要

- 国内リートを主要投資対象とします。
- 国内リートの損益に加え、円コース以外では選択した通貨での為替取引を行うことから得られる為替損益も投資効果として反映されます。

運用実績に関する課題認識

- 主なパフォーマンス劣後の要因は、銘柄選択がマイナスに寄与したことです。
- 銘柄選択要因は、配当金と資産価値の上昇、投資口価格の相対的な割安感に着目した銘柄選択を行いましたが、銘柄選択効果がセクター間で分かれ、オフィス・商業のプラス寄与があった一方、産業・住居の銘柄選択がマイナスとなり、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型) 米ドルコース)

	3年	5年	設定来
騰落率	48.2%	65.2%	381.9%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 当ファンドは、配当及び資産価値の成長性、リート価格の割安性を重視した銘柄選択により、パフォーマンス改善を図ります。
- 具体的には、カタリスト(株価上昇のきっかけ)発掘と実現に向けて、リートの運用会社との対話を主軸に、銘柄選択で収益の獲得を目指します。
- 不動産市況やマーケット局面の変化を捉え、銘柄及び業種の保有比率などポートフォリオのリスクコントロールを実施します。
- リートの運用会社との継続的な対話を強化し、キャッシュフローに着目した独自の調査・分析を深化させることで、セクター及び個別銘柄の魅力度測定やリート価格の割安性評価の精度向上に努め、銘柄選別と入替を行う方針です。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 運用実績

みずほ J-REIT ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
みずほ J-REIT ファンド	2003/12/18	261億円	

ファンドの概要

- 国内リートを主要投資対象とします。
- 銘柄選択にあたっては、リート市場における高度な知識を有する運用チームが豊富な運用経験の中で培った運用基盤を活用し、付加価値の高い運用を目指します。

運用実績に関する課題認識

- 主なパフォーマンス劣後の要因は、銘柄選択がマイナスに寄与したことです。
- 銘柄選択では、配当金と資産価値の上昇、投資口価格の相対的な割安感に着目して投資を行いました。銘柄選択効果がセクター間で分かれ、オフィスや商業を中心とする銘柄選択はプラスに寄与したものの、産業施設や住居の銘柄選択がマイナスとなり、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	13.2%	5.2%	271.8%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 当ファンドは、配当の水準・安定性及び資産価値の成長、リーートの価格水準を重視した銘柄選択により、パフォーマンス改善を図ります。
- 具体的には、カタリスト(株価上昇のきっかけ)発掘と実現に向けて、リーートの運用会社との対話を主軸に、銘柄選択で収益の獲得を目指します。
- 不動産市況やマーケット局面の変化を捉え、銘柄及び業種の保有比率などポートフォリオのリスクコントロールを実施します。
- リーートの運用会社との継続的な対話を強化し、キャッシュフローに着目した独自の調査・分析を深化させることで、収益・配当予測やリーートの価格水準評価の精度向上に努め、銘柄選別と入替を行う方針です。

④ 運用実績

りそなJリート・アクティブ・オープン

ファンド名	設定日	純資産	HP
りそなJリート・アクティブ・オープン	2010/6/24	437億円	

ファンドの概要

- 国内リートを主要投資対象とします。個別銘柄の調査・分析に基づいて、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の獲得を目指します。
- りそなアセットマネジメント株式会社より投資助言および情報提供を受けます。

運用実績に関する課題認識

- 主なパフォーマンス劣後の要因は、銘柄選択がマイナスに寄与したことです。
- 銘柄選択については、投資口価格が相対的に割安な銘柄の中から、収益の安定性や成長力、スポンサーなどを含めた信用力を評価基準として銘柄を選択してきましたが、銘柄選択効果がセクター間で分かれました。
- オフィス・商業がプラス寄与の一方、ホテル・産業・住宅セクターでは銘柄選択がマイナスとなり、ポートフォリオ全体のリターンを押し下げました。また、銘柄およびセクターの保有比率を適切にコントロールできなかった点も課題と認識しています。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	10.0%	3.5%	199.4%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後は、適切なリスク水準と銘柄構成およびセクターの保有比率を考慮したポートフォリオ構成の見直しを進めます。
- 具体的には、市場環境の変化に合わせてセクターの保有比率を機動的に変更し、適切なリスク水準を確保するため、確信度に応じて銘柄を絞り込む方針です。
- 銘柄選択においては、成長性のみならず、投資口価格のバリュエーションや流動性リスクなども考慮し、投資候補の精査および入れ替えを機動的に実施する方針です。
- これらの取り組みにより、リスクコントロールと超過収益の積み上げを目指し、パフォーマンスの改善に努めます。

® 運用実績

Oneワールド・リート・インカム・オープン(毎月決算コース)

(同種ファンド数:3ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
Oneワールド・リート・インカム・オープン(毎月決算コース)	2004/4/23	484億円	■
OneワールドREITアクティブファンド<DC年金>	2007/9/27	15億円	■
OneワールドREITアクティブファンド(毎月決算型)	2007/5/24	11億円	■

ファンドの概要

- 世界各国(除く日本)のリートを主要投資対象とします。
- 信託財産の着実な成長と比較的高い配当利回りを安定的に獲得することを目標とします。
- 運用指図に係る権限をデベイス・セレクトド・アドバイザーズ(米国地域担当)およびファースト・センティア・インベスターズ(米国および日本以外の地域担当)に委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 高い配当利回りの獲得を企図して、相対的に利回りが低い米国をアンダーウェイトとしましたが、米国のパフォーマンスが良好であったことからファンドのパフォーマンスは劣後しました。
- 米国において、バリュエーションの観点からアンダーウェイトとした銘柄が上昇したことや、クオリティが高く割安と判断した銘柄が供給過剰で下落したことなどが劣後要因となりました。
- 耐久性のある不動産事業を魅力的なバリュエーションで購入し、長期保有する方針が期待通りの結果となりませんでした。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:Oneワールド・リート・インカム・オープン(毎月決算コース))

	3年	5年	設定来
騰落率	28.8%	38.4%	232.8%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 引き続き、運用体制の維持・強化を図りつつ、運用の質を高めます。
- 具体的には、米国地域を担当している委託先の人員体制について、退職者の後任候補の雇用を進めながら、運用の検証とモニタリングを継続し、新ツールの活用による分析の高度化を図ります。こうした取組を通じて、運用成果の改善を目指します。
- グロース(成長性)要素が強いデータセンターやヘルスケア銘柄では好調なパフォーマンスが長く続いており、セクター間のバリュエーションが均衡していけば、ポートフォリオにおける米国部分のパフォーマンスは改善するものと考えます。

② 運用実績

One US-REIT オープン

(同種ファンド数:2ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
One US-REIT オープン	2004/9/30	3,094億円	
One US-REIT オープン(年1回決算型)	2013/10/31	107億円	

ファンドの概要

- 米国リートを主要投資対象とします。
- 米国リートに分散投資を行い、市場平均よりも高い水準の配当収益の確保と長期的な値上がり益の獲得を目指します。
- インベスコ・アドバイザーズ・インクに運用の指図をする権限を委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績に関する課題認識

- 2024年半ばまでマクロ経済分析によるトップダウン・アプローチによる業種選択がマイナスに影響しました。また、銘柄選択においても、割安と判断して保有し続けた一部銘柄の株価が下落したことなども劣後要因となりました。2025年半ば以降では、トランプ関税への懸念後退による景気敏感銘柄の上昇局面に出遅れたことや参考指数の違いによって他社ではあまり投資しない通信リートが長期低迷となったことなどが要因となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:One US-REIT オープン)

	3年	5年	設定来
騰落率	30.9%	49.4%	265.7%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 2024年の後半に運用委託先の運用担当責任者の交代など体制面の変更や運用プロセスの改善などの見直しを行いました。具体的には、マクロ経済見通しによるトップダウンでの業種配分がパフォーマンスの重荷となったことを踏まえ、個別銘柄分析をより重視する体制・プロセスへ移行しました。また割安と判断した銘柄の下落が劣後要因となったことから、個別銘柄のリサーチ精度を高めて確信度の高い銘柄により重点的に投資するなど、パフォーマンスの向上のための改善に努めています。
- 引き続き、運用委託先への継続的なモニタリングを通じて運用成果の向上に努めてまいります。

® 運用実績

ワールドアセットバランス(リスク抑制コース)

(同種ファンド数:2ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
ワールドアセットバランス(リスク抑制コース)	2017/1/18	98億円	
ワールドアセットバランス(基本コース)	2017/1/18	37億円	

ファンドの概要

- 先進国(除く日本)の株式、債券、リートおよび新興国の株式、債券に分散投資します。各資産への基本投資比率は、統計的手法により原則として年1回見直します。
- 基本コースは、基本投資比率をもとに分散投資を行います。リスク抑制コースは基本投資比率をもとに分散投資を行いつつ、基準価額の下落を一定水準に抑えることを目指します。
- 各資産への投資比率の決定にあたってはみずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社(以下、みずほFT)の助言を活用します。
- 外貨建資産に対しては、原則として為替ヘッジを行います。

運用実績に関する課題認識

- 基本コースでは株式・債券・リートに分散投資する「基本資産配分戦略」を採用し、それに加え、リスク抑制コースでは基準価額の下落抑制を目指す「ダイナミックヘッジ戦略(以下、DH戦略)」を組み合わせています。コロナ禍後は、インフレ加速等を背景に世界的な金利上昇が進み、基本資産配分戦略は先進国債券を中心にマイナスに寄与しました。DH戦略は、一定の抑制効果を発揮したものの、パフォーマンスは低調となりました。足元では海外主要国の金利低下等を背景に株式市場が上昇し、基本資産配分戦略は海外株式を中心にプラス寄与となっています。DH戦略は急反発局面で上昇の一部を取り逃す場合があるものの、下落抑制に寄与しており、パフォーマンスも改善傾向にあります。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:ワールドアセットバランス(リスク抑制コース))

	3年	5年	設定来
騰落率	-3.3%	-11.5%	-6.1%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 基本資産配分戦略は、コロナ禍後のパフォーマンス悪化等を踏まえ、2024年12月に改良を実施し、その後のパフォーマンス改善が確認されております。
- DH戦略は、根幹であるドローダウン抑制機能を維持しつつ、上昇局面における機会損失の低減を図る高度化を進めます。具体的には、みずほFTと協働のうえ、相場下落後の急速な反発局面における市場上昇の取り込み向上に向け、ヘッジ比率の算出ロジック等の改良を進めます。一方で、主目的であるドローダウン抑制効果を損なわぬよう注力してまいります。これらの取り組みにより、ドローダウン抑制機能を維持しながら上昇局面での機会損失の低減を図り、パフォーマンスのさらなる改善に努めてまいります。

® 運用実績

One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%)<DC年金>

(同種ファンド数:6ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
One国際分散投資戦略ファンド (目標リスク8%)<DC年金>	2020/5/13	29億円	■
One国際分散投資戦略ファンド (目標リスク8%)	2019/11/29	14億円	■
One国際分散投資戦略ファンド (目標リスク6%)	2019/11/29	3億円	■

ファンド名	設定日	純資産	HP
One国際分散投資戦略ファンド (目標リスク4%)	2019/11/29	3億円	■
One国際分散投資戦略ファンド (目標リスク2%)<DC年金>	2020/5/13	5億円	■
One国際分散投資戦略ファンド (目標リスク2%)	2019/11/29	0.1億円	■

ファンドの概要

- 世界各国の株式、債券、通貨、商品等に分散投資します。また、投資効率の向上・リスクコントロールのため先物、為替予約取引等を活用します。
- 先物取引や為替予約取引等の買建て(ロング)ポジションおよび売建て(ショート)ポジションを組み合わせ、これらの取引の絶対値の合計が信託財産の純資産総額の10倍程度の範囲内で運用を行います。
- 為替予約取引等は、収益を追求する目的で活用するほか、組入外貨建資産の為替ヘッジ目的でも利用します。
- 資産の組入比率を調整し、基準価額の変動リスクを各ファンドの目標リスク水準に抑えつつ、中長期的に信託報酬控除前で変動リスク水準と同程度のリターンの獲得を目指します。

運用実績に関する課題認識

- 主なパフォーマンス悪化要因として、2021年後半から2023年後半にかけて、世界的なインフレ加速・金融引き締め政策により、各国の金利が急速に上昇し、同時に株式市場も下落したことが挙げられます。
- その後は株式市場の上昇がパフォーマンス回復につながった一方で、債券市場は冴えない動きが継続し、パフォーマンスを下押しする要因となりました。特に、分散効果を追求する目的で、債券先物の買建てポジションを多く保有していたことがパフォーマンスを下押しする要因となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%)<DC年金>)

	3年	5年	設定来
騰落率	0.1%	-13.0%	-15.5%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 当ファンドでは、変化する市場環境への対応力強化を目指し、2023年度以降に月次の基本配分戦略運用モデルの見直しを行ってまいりました。
- 今後は、足元の回復基調を踏まえつつ、現行の運用を継続します。
- 具体的には、2025年度以降、パフォーマンスは回復基調であり、これまでのモデル改良による効果をモニタリングします。
- 状況に応じた見直し余地を確認しながら、パフォーマンス改善につなげてまいります。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 運用実績

One ターゲットリターン・ファンド(4%コース)

ファンド名	設定日	純資産	HP
One ターゲットリターン・ファンド(4%コース)	2020/3/27	7億円	

ファンドの概要

- 世界各国の株式、債券、リート、コモディティ、ETFなどに分散投資します。
- 分散投資を通じて、中長期的な目標リターン年率4%(信託報酬等控除後)を目指します。
- 「ファンド・オブ・ファンズ方式」*により運用を行います。組み入れる投資信託証券への投資配分については、均等配分を原則とします。
- 外貨建資産の一部について、為替ヘッジを行う場合があります。

*ファンド・オブ・ファンズとは、投資信託証券への投資を目的とする投資信託のことで、投資対象に選んだ複数の投資信託証券を組み入れて運用する仕組みを一般に「ファンド・オブ・ファンズ方式」といいます。

運用実績に関する課題認識

- 年率4%程度のリターンの獲得を目指し、安定的な利息収入を重視した運用を行ってきたことから、相対的に債券の組入比率が高くなりました。その結果、2022年以降の世界的な金利上昇局面において、保有する債券価格の下落が運用成績にマイナスの影響を与えました。
- 外貨建て資産の為替変動リスクを抑えるために為替ヘッジを活用していますが、海外の金利上昇に伴い為替ヘッジにかかるコストが増加したことも運用成績の押し下げ要因となりました。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	-0.7%	-7.0%	-1.2%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 引き続き、投資先の運用状況を点検しながら、運用成果の改善に向けた働きかけを継続します。
- 具体的には、各運用会社との定例ミーティングを通じてモデル見直しの検討状況を確認し、必要な対応を促します。あわせて、運用成績が低迷していた投資ファンドの売却(2026年1月)と再配分を実施し、ポートフォリオの効率化を進めました。
- 継続的なモデル改善のモニタリングと組入ファンドの入替検討により、相対パフォーマンスの改善を目指す方針です。

④ 運用実績

世界8資産リスク分散バランスファンド(目標払出し型)

ファンド名	設定日	純資産	HP
世界8資産リスク分散バランスファンド(目標払出し型)	2020/3/27	17億円	

ファンドの概要

- 世界各国の株式、債券、リートの8つの資産*に分散投資します。
- 基準価額の変動リスクを年率4%程度に抑えつつ、中長期的に安定的な運用を目指します。
- 外貨建資産の一部について、為替ヘッジを行う場合があります。

*国内債券、先進国債券、新興国債券、国内株式、先進国株式、新興国株式、国内リート、先進国リート

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	-1.6%	-12.9%	-8.8%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

運用実績に関する課題認識

- 主なパフォーマンス悪化要因として、2021年後半から2023年後半にかけて、世界的なインフレ加速・金融引き締め政策により、各国の金利が急速に上昇し、同時に株式市場も下落したことが挙げられます。
- その後は株式市場の上昇がパフォーマンス回復につながった一方で、債券市場は冴えない動きが継続し、パフォーマンスを下押しする要因となりました。

改善に向けた取り組み

- 当ファンドでは、変化する市場環境への対応力強化を目指し、2023年度以降に月次の基本配分戦略および日次の機動的配分戦略の運用モデルの見直しを行ってまいりました。
- 今後は、足元の回復基調を踏まえつつ、現行の運用を継続します。
- 具体的には、2025年度以降、パフォーマンスは回復基調にあり、これまでのモデル改良による効果をモニタリングします。
- 状況に応じた見直し余地を確認しながら、パフォーマンス改善につなげてまいります。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 運用実績

バンクローン・ファンド(ヘッジなし)

(同種ファンド数:4ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
バンクローン・ファンド (ヘッジなし)	2012/12/17	16億円	■
バンクローン・ファンド (ヘッジあり)	2012/12/17	7億円	■

ファンドの概要

●米国企業向けバンクローン*(貸付債権)を主要投資対象とし、高水準のインカムゲインの確保を目指します。

●イトン・バンス・マネジメントが実質的な運用を行います。

*バンクローンとは、企業が資金調達する手段である融資(ローン)の一つで、単独の銀行が審査を行って企業に資金を貸し出す「銀行融資」とは異なり、銀行などの複数の金融機関が同一の契約によって協調して企業に資金を貸し出す仕組みの融資(シンジケート・ローン)です。また一般に、バンクローンには担保が付いています。

運用実績に関する課題認識

- 主なパフォーマンス悪化要因として、相場下落時の損失抑制や投資元本の保全を重視していることから、相対的にクオリティの高い銘柄への投資割合が多くなりやすい点が挙げられます。
- 評価期間中は、信用リスクの高い銘柄ほど大きく上昇する市場環境が続いたため、より慎重な運用を行っていた当ファンドは、その恩恵を十分に享受できず、相対的な運用成績の押し下げ要因となりました。
- 一部保有銘柄において、発行体の財務戦略の見直し(LME)の影響を受けたことも、運用成績のマイナス要因となりました。

ファンド名	設定日	純資産	HP
バンクローン・ファンド (ヘッジなし/年1回決算型)	2013/9/30	3億円	■
バンクローン・ファンド (ヘッジあり/年1回決算型)	2013/9/30	1億円	■

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:バンクローン・ファンド(ヘッジなし))

	3年	5年	設定来
騰落率	39.2%	70.3%	161.9%
運用実績評価	下位	下位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

改善に向けた取り組み

- 今後も、市場環境が悪化した際の損失抑制や資産保全を重視する運用方針を維持しながら、さまざまな市場環境への対応力の強化に取り組めます。
- 当ファンドは、信用リスクの高い銘柄が上昇する局面では運用成績が伸び悩む一方、市場が不安定となる局面では相対的に値下がりを抑える傾向があります。今後もそうした特性が十分に発揮されているかを継続的に確認し、運用状況の点検を行います。また、財務内容の悪化や債務再編の影響が懸念される銘柄については、これまで以上に早い段階で対応することで、価格下落による影響の軽減に努めます。
- 引き続き、リスク管理を徹底しながら、高水準の利息収入の確保と安定的な運用成果の実現を目指してまいります。

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 商品性(費用)

商品性において費用(総経費率)が相対的に高いファンド

- 以下のファンドにつきましては、信託報酬の引き下げや償還等の検討を行う予定です。

ファンド名	設定日	純資産	総経費率	HP	課題認識・改善に向けた取り組み
MHAM TOPIXオープン	1998/10/22	142億円	0.66%		● 設定時期が古いインデックスファンドや希少性のあるインデックスファンド(同種ファンドが少数等)で総経費率が相対的に高くなりました。総経費率の妥当性等をモニタリングしてまいります。
MHAMトピックスファンド	2001/6/29	45億円	0.66%		
コア30インデックス	1998/11/30	14億円	0.88%		
One世界リートインデックスファンド(毎月分配型)	2006/6/12	1,732億円	0.95%		
One世界リートインデックスファンド(隔月分配型)	2023/9/28	26億円	0.96%		
たわらノーロード S&P500配当貴族	2023/12/26	3億円	1.02%		● 信託報酬率の水準は適正と判断しておりますが、純資産総額が小さいことにより、信託報酬以外にかかる「その他費用」の比率が高まり、総経費率が上昇しました。 ● 今後の純資産総額を踏まえ、「総経費率」の動向について注視してまいります。
たわらノーロード フォーカス フィンテック	2020/1/16	3億円	1.20%		
Oneキャピタル・グロース・オープン	1999/10/28	25億円	1.88%		● 運用実績が芳しくないことが課題と認識しております。(運用実績に対する課題認識等について、P26、P48、P54をご参照ください) ● 運用実績の改善を通じて、費用に見合ったファンド提供価値の向上に努めます。
通貨選択型リート・ファンド(毎月分配型) 円コース	2011/1/6	15億円	1.71%		
One国際分散投資戦略ファンド(目標リスク8%)	2019/11/29	14億円	1.87%		

※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

® 情報開示

情報開示に課題が見られるファンド

- 以下のファンドについては、対応方針を決定し、順次対応を完了しています。

ファンド名	設定日	純資産	HP	情報開示に関する課題認識	取り組み状況
対応完了 MHAM TOPIXオープン	1998/10/22	142億円		●ベンチマークおよび参考指数に東証株価指数(配当を含まない指数)を用いており、配当相当分の騰落率の比較が適切に行えない状態となっておりました。 ●2021年に約款変更を行い、ベンチマークおよび参考指数を東証株価指数(配当込み)へ変更しましたが、運用報告書および月次レポートにおいては、東証株価指数(配当を含まない指数)と東証株価指数(配当込み)をつなぎ合わせる形で騰落率の開示を行っておりました。	●運用報告書および月次レポートに掲載するベンチマークおよび参考指数の騰落率について、設定来からのすべての期間で東証株価指数(配当込み)を用いて計測するよう変更しました。 ●当該変更は2026年6月末基準発行のものより順次対応を行っております。
対応完了 MHAMトピックスファンド	2001/6/29	45億円			
対応完了 たわらノーロード 国内株式<ラップ専用>	2008/6/3	237億円			
対応完了 MHAMスリーウェイオープン	1993/11/26	58億円			

個別ファンド評価(グリーン評価)

③ 運用実績上位(グリーン評価)のサマリー

評価項目

☑ 運用実績

- 運用実績が他社の同一カテゴリーファンドと比較して上位に位置するグリーン評価ファンドは合計26本
- 26本の内訳は、株式型14本、債券型3本、バランス型9本

<ファンド評価結果の個別ページにおけるご留意事項>

- 本資料では、同一シリーズや同一運用戦略に分類されるファンドを「同種ファンド」として扱います。
(決算頻度や分配方針、為替ヘッジの有無、通貨コースなどに違いがあっても同一の運用戦略にもとづいて運用される場合は、「同種ファンド」とします。)
- 次ページ以降ページ左上のタイトルには、同種ファンド内で一番残高が大きいファンドの名称を記載しています。
- 次ページ以降の「ファンドの概要」において記載する投資対象は、直接投資または、各ファンドが外国籍投信やマザーファンド等を通じて実質的に投資する資産を指します。
- 次ページ以降の各種データは、2026年3月31日時点のものです。

③ 運用実績

MHAMジャパンオープン

ファンド名	設定日	純資産	HP
MHAMジャパンオープン	1999/4/27	39億円	

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象として、ベンチマークである東証株価指数(配当込み)を上回る運用成果を目指します。
- 個別企業調査や産業調査に基づき個別企業の投資価値判断を行い、中・長期的に投資魅力が高いと判断される銘柄を選定します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 利益成長および株価バリュエーション(企業価値と比較した株価指標)を重視した個別銘柄分析に基づき、投資環境見通しに応じて銘柄選定を行いました。
- アナリストの業績予想や銘柄推奨を活用し、長期的利益予想に対して評価余地のある個別企業に選別投資したことが良好な実績に繋がりました。
- 今後も国内最大級の充実したリサーチ体制を最大限に活用し、長期的に株主価値の成長が見込める銘柄選定を続け、一層の運用実績の向上に取り組んでまいります。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	116.6%	131.4%	395.0%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※当ファンドは、2000年6月30日に分割が行われております。基準価額(分配金再投資)は、分割が行われずかつ分配金(税引前)を再投資したものと仮定して算出した収益率に基づきます。

③ 運用実績

One高配当利回り厳選ジャパン

ファンド名	設定日	純資産	HP
One高配当利回り厳選ジャパン	2019/11/13	165億円	

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象とします。
- 銘柄選定にあたっては、「配当利回り」と「長期にわたる配当の持続性・成長性」に着目し、20～40銘柄程度に厳選投資します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 配当利回りの水準に加え、配当の安定性・成長性や配当の原資となる利益の成長性、中長期的なROE(自己資本利益率)の創出力に着目し、厳選投資を行ってきたことが奏功しました。また、調査活動やインハウスのアナリストとの分析・議論を通じて投資魅力度を判断したことが個別銘柄選択効果としてプラスに寄与しました。
- 今後も国内最大級の体制を誇るアナリストと協働し、配当利回りやROEの持続性で評価ができる銘柄に厳選投資し、運用実績の向上に努めます。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	113.2%	156.7%	187.5%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



③ 運用実績

Oneジャパン・セレクト

(同種ファンド数:2ファンド)



R&Iファンド大賞2026
国内株式コア 部門

受賞ファンド
Oneジャパン・セレクト

※基準日:2026年3月31日。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンド名	設定日	純資産	HP
Oneジャパン・セレクト	1998/9/18	77億円	
Oneジャパン・セレクト<DC年金>	2001/11/1	58億円	

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象とします。
- 大局観や相場局面判断を重視し、個別銘柄の調査・分析に基づき成長性とバリュー(株価の割安性)の側面等を勘案して投資銘柄を選定します。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:Oneジャパン・セレクト)

	3年	5年	設定来
騰落率	121.8%	129.4%	859.4%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 金融政策正常化、資本効率改善、生成AI・半導体関連等のテーマを先んじて捉えたうえで、個別企業の競争力や成長性といったファンダメンタルズと株価バリュエーションに基づく的確な銘柄選択が、良好なパフォーマンスにつながりました。
- 今後も機動的なトップダウン判断とリサーチ力を活かした運用により安定的なリターンの積上げを目指します。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

One日本インカム株式ファンド(3ヵ月決算型)



R&Iファンド大賞2026
国内株式高配当 部門

受賞ファンド

One日本インカム株式ファンド
(3ヵ月決算型)

※基準日:2026年3月31日。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンド名	設定日	純資産	HP
One日本インカム株式ファンド(3ヵ月決算型)	2005/7/29	739億円	

ファンドの概要

- 国内株式を主要投資対象とします。
- 銘柄選定にあたっては、予想配当利回り、配当性向および信用リスクなどの基準を用いて候補銘柄を抽出したのち、業績動向、株価指数ならびに流動性などを総合的に勘案し、安定した配当等収益の確保を目指します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 配当利回りの水準に加え、長期的に配当金を増加させることができるかを重視して選別投資を行ったことが良好な実績に繋がりました。また、日本企業が資本効率改善に向けた取り組みを進めるなか、株主還元の拡充が継続していることも、運用実績にプラスの影響となりました。
- 今後も業界トップクラスのアナリスト体制を最大限活用し、リターンの積み上げを目指します。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	108.4%	169.6%	416.5%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

One割安日本株ファンド(年1回決算型)

(同種ファンド数:2ファンド)



R&Iファンド大賞2026
国内株式バリュー 部門

受賞ファンド

One割安日本株ファンド
One割安日本株ファンド(年1回決算型)

※基準日:2026年3月31日。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンド名	設定日	純資産	HP
One割安日本株ファンド(年1回決算型)	2013/12/13	480億円	
One割安日本株ファンド	2012/2/23	374億円	

ファンドの概要

- 国内の割安な株式を主要投資対象とします。
- 運用にあたっては、株価のバリュエーション(企業価値と比較した株価指標)に着目しつつ、それぞれの企業のファンダメンタルズ*等も勘案し、相対的に高い配当収入と値上がり益の獲得を目指します。

*企業の業績・財務内容・事業戦略等、経営内容や経営状況の基本情報

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:One割安日本株ファンド(年1回決算型))

	3年	5年	設定来
騰落率	124.1%	160.5%	338.7%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- PBR(株価純資産倍率)、PER(株価収益率)、配当利回りなどの株価指標が割安な銘柄の中から業績が改善・拡大すると判断した銘柄を選別し投資を行いました。個別銘柄の調査活動を網羅的かつ精緻に行い、カタリスト(株価上昇のきっかけとなる要因)を的確に捉えたことが運用実績にプラスに働きました。
- 今後も割安銘柄の中からカタリストのある銘柄を選択し、運用実績の維持・向上に取り組んでまいります。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載通りの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

AI(人工知能)活用型世界株ファンド



R&Iファンド大賞2026
外国株式コア 部門

受賞ファンド

AI(人工知能)活用型世界株ファンド

※基準日:2026年3月31日。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンド名	設定日	純資産	HP
AI(人工知能)活用型世界株ファンド	2017/9/29	478億円	

ファンドの概要

- 世界(除く日本)の株式を主要投資対象とします。
- アセットマネジメントOneが独自に開発したディープラーニングモデルを用いて、投資魅力度が高い銘柄を抽出し、ファンドマネジャーの判断によりニュースフロー等のテキスト等を融合させ、ポートフォリオを構築します。
- アセットマネジメントOne U.S.A.・インクの助言を活用します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

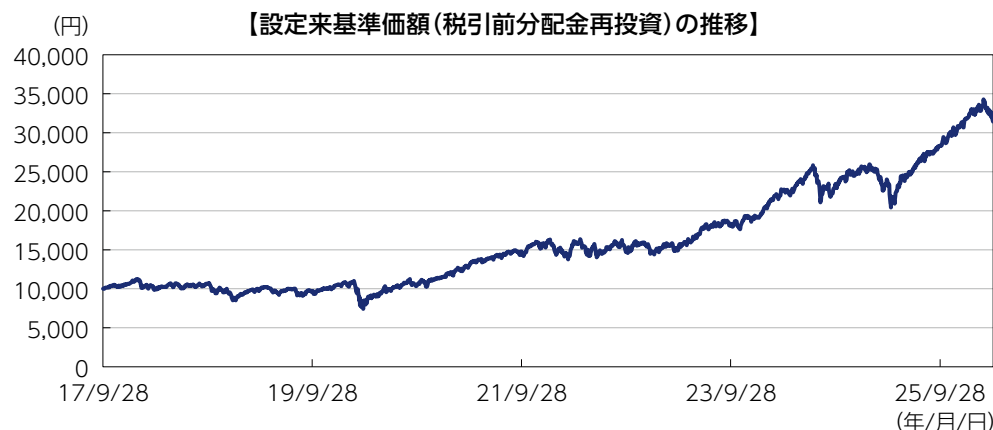
- AIモデルが幅広く銘柄を選び投資テーマの分散が効いたことで、ポートフォリオのリスクが上手くコントロールされたことがパフォーマンスに貢献したと考えています。さらに、戦争など突発的なイベント発生時にはファンドマネジャーによる定性判断を加味することが、ダウンサイドリスク抑制に繋がっています。
- 今後も、ディープラーニングを活用したAIモデルについて、学習させるデータの選び方やパラメータの調整などを継続的に改良し続けることで、さらなる超過収益獲得を図りたいと考えています。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	101.2%	139.5%	214.4%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

One世界好配当株式ファンド(毎月決算型) (為替ヘッジあり)

ファンド名	設定日	純資産	HP
One世界好配当株式ファンド(毎月決算型) (為替ヘッジあり)	2018/4/5	1億円	

ファンドの概要

- 世界(除く日本)の好配当株式を主要投資対象とします。
- 配当利回りの高い銘柄および増配の期待できる銘柄を選定します。
- 欧米の株式については、アセットマネジメントOne U.S.A.・インクの助言を活用します。
- 外貨建資産に対しては、原則として為替ヘッジを行います。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 配当利回りの水準だけでなく、長期的な増配余力や復配の可能性といった要素も勘案して銘柄選択を行ってきたことが奏功しました。特に配当の成長性が期待できる企業への投資リターンが寄与しました。
- これらは、企業分析においてキャッシュフロー創出力の分析を中心に据えつつ、安定性から成長性まで評価する銘柄選別の積み重ねによるものです。
- 今後もこの運用方針を維持しつつ、企業分析に基づく銘柄の見直しを通じて、リターンの積み上げを目指します。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	29.8%	34.5%	51.9%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



③ 運用実績

Oneベトナム株式ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
Oneベトナム株式ファンド	2015/6/15	103億円	

ファンドの概要

- ベトナムの株式を主要投資対象とします。
- ベトナム経済の発展に伴い利益成長が期待される銘柄に投資を行います。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 利益の成長性・財務の安定性といった個別企業のファンダメンタルズ分析だけでなく、短期・長期の経済・政策動向も勘案した銘柄選択を行ってきたことが奏功しました。特に長期的に産業が拡大する消費関連や経済政策の恩恵を受ける金融関連企業の投資リターンが寄与しました。
- これらは、当社のおよそ20年にわたるベトナム経済・企業への調査の積み重ねによるものです。
- 今後もこの運用方針を維持しつつ、リターンの積み上げを目指します。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	72.8%	88.7%	162.1%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

フィッシャーUSマイクロ株式ファンド



R&Iファンド大賞2026
北米株式中小型 部門

受賞ファンド
フィッシャーUSマイクロ株式ファンド

※基準日:2026年3月31日。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンド名	設定日	純資産	HP
フィッシャーUSマイクロ株式ファンド	2015/8/10	169億円	

ファンドの概要

- 米国マイクロ株式を主要投資対象とします。
- 割安と判断される銘柄群のなかから、長期的に値上がりが期待できる銘柄に投資します。
- 株式などの運用指図に係る権限をフィッシャー・アセットマネジメント・エルエルシーに委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 米国の小型株企業を投資対象として、売上高の成長、安定したバランスシート、強固な競争力などの特徴を備えた優良企業に分散投資を行いました。また、当戦略は市場の長期的な将来動向を予測し、その牽引役と見込まれる業種・スタイル等の特徴を個別銘柄選択を通じてポートフォリオレベルで実現するトップダウン・アプローチを採用しており、トップダウン・アプローチでの銘柄選定が、好調なパフォーマンスを支えました。
- 今後も市場環境に応じて柔軟にポートフォリオを適合させ、様々な市場環境で超過収益を獲得することを目指します。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	109.0%	123.2%	262.7%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



③ 運用実績

米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジなし>

(代表ファンド:米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジなし>) (同種ファンド数:2ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジなし>	2017/2/17	237億円	
米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジあり>	2017/2/17	18億円	

ファンドの概要

- 米国の生活インフラ関連企業*の株式を主要投資対象とします。
- 投資環境に応じて、「インフラ運営関連企業」と「インフラ開発関連企業」の投資割合を機動的に変更します。
- 銘柄選定にあたっては、アセットマネジメントOne U.S.A.・インクの投資助言を活用します。

*人々の生活に必要不可欠な設備やサービスを運営・提供する「インフラ運営関連企業」と、インフラの整備・構築等に携わる「インフラ開発関連企業」を指します。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 米国では、過去成立した政策がインフラ投資を継続的に押し上げるなか、データセンターや国内製造拠点を中心とする民間投資の急拡大を背景に、良好な環境が継続しました。
- そのなかでも、インフラ投資の拡大がより期待できるインフラ領域において、特に業績面での恩恵が期待されるインフラ開発関連銘柄を厳選して投資していたことが、良好なパフォーマンスの獲得に繋がりました。こうした環境に応じた適切なポートフォリオの構築は、当社の米国運用拠点との連携による地に足のついた調査活動や分析に支えられています。
- 今後も投資環境の変化を見極め、恩恵が期待できる銘柄の厳選を通じて、リターンの積み上げを目指します。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジなし>)

	3年	5年	設定来
騰落率	97.1%	154.1%	316.0%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載通りの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

メディカル・サイエンス・ファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
メディカル・サイエンス・ファンド	2014/8/1	445億円	

ファンドの概要

- 世界各国のメディカル・サイエンス企業*の株式を主要投資対象とします。
- 株式などの運用指図に係る権限の一部をジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・US・エルエルシーに委託します。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*メディカル・サイエンス企業とは、バイオテクノロジー、医薬品、医療機器、ヘルスケア・サービスなどに関連する企業です。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 長期的な視点に基づき、未だ満たされない医療ニーズに対応する革新的な治療薬や機器を開発するメディカル・サイエンス企業に焦点を当て、投資を行いました。
- 特に、バイオテクノロジー業界における新薬開発やM&A(合併・買収)、政策動向による成長機会を捉えた銘柄選定が、好調なパフォーマンスを支えました。
- 今後もボトムアップによる徹底したファンダメンタル・リサーチによって、成長力を有しながらも株価水準が割安な銘柄を特定することで、安定的なリターンの積み上げを目指します。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	52.7%	85.6%	249.6%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
 ※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

フロンティア・ワールド・インカム・ファンド

(同種ファンド数:2ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
フロンティア・ワールド・インカム・ファンド	2006/3/31	176億円	
フロンティア・ワールド・インカム・ファンド(年1回決算型)	2013/9/30	7億円	

ファンドの概要

- 新興国の政府または政府機関などが発行する債券を主要投資対象とします。
- 投資にあたっては、フランクリン テンプルトン インベストメント マネジメント リミテッドから投資助言および情報提供を受けます。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 超過収益の源泉の一つである国別配分が最大のプラス寄与となりました。また銘柄選択もプラスに寄与しました。
- 国別配分は、スリナムのオーバーウェイトやサウジアラビア及びUAEの非保有などがプラスに寄与しました。また、スリナム、カザフスタン、ガーナなどの銘柄選択もプラスに寄与しました。
- 指数採用国に関係なく、厳選された新興国を3つのカテゴリーに分類し、リスクが高い国の投資上限が小さくなるように規定し、ボトムアップのファンダメンタルズ調査によって、割安な国債、準国債を見つけ出すことが高パフォーマンスに寄与しています。
- 今後もこの運用方針を維持し、リターンの積み上げを目指します。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:フロンティア・ワールド・インカム・ファンド)

	3年	5年	設定来
騰落率	56.7%	74.7%	240.8%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

Oneニッポン債券オープン



R&Iファンド大賞2026
外国債券円ヘッジ 部門

受賞ファンド
Oneニッポン債券オープン

※基準日:2026年3月31日。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンド名	設定日	純資産	HP
Oneニッポン債券オープン	2016/7/1	51億円	

ファンドの概要

- 日系企業が発行する円建ておよび外貨建ての各種債券を主要投資対象とします。
- 金利水準や債券市場の動向に加え、個別企業の経営戦略や信用力評価に基づき投資魅力度の高い銘柄を選定します。
- 外貨建資産に対しては、原則として為替ヘッジを行います。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 日本の金利上昇を見据え、デュレーション*を低めに管理し、金利上昇によるキャピタルロスを抑制しながら、日系企業の発行する円建て・外貨建ての劣後債等の債券に分散投資を行い、インカムゲインを中心にリターンの積み上げを図ったことが奏功しました。
- 地政学リスクや関税問題など市場環境の変化も踏まえながら、当社クレジットアナリストによる業種別・企業別の信用力分析を活用し、投資魅力度が高いと判断した銘柄に随時入れ替えを行いました。
- 今後も信用力が安定し、かつ魅力的と評価した債券への投資と、機動的なデュレーション管理を組み合わせ、安定的な収益の獲得をめざします。

*金利変動に対する債券価格の変動性

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	4.0%	2.7%	11.5%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

LOSA長期保有型国際分散インデックスファンド

ファンド名	設定日	純資産	HP
LOSA長期保有型国際分散インデックスファンド	2015/12/28	265億円	

ファンドの概要

- 世界各国の様々な資産*に分散投資をします。
- 資産配分は、信託財産総額に対し株式55%、債券35%、リート10%を目安とします。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*主としてバンガード社が設定するインデックス型の投資信託に投資を行います。実質的な投資対象資産は、日本株式、米国株式、欧州株式、アジア太平洋地域(日本を除く)の株式、新興国株式、日本債券、米国債券、米国短期インフレ連動国債、欧州(ユーロ圏)債券、新興国債券、米国リート、世界(米国を除く)リートとします。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 当ファンドは、バランス型のファンドの中でも債券の比率が少なく、株式やリートなどリスク性資産の比率が高いことが特色です。
- 2020年以降、好調な企業業績と景気を背景に株式市場などリスク性資産が上昇する一方、インフレを背景に金融正常化が進み債券市場が下落するなか、債券比率が少なくリスク性資産の比率が高い当ファンドは良好なパフォーマンスを実現することができました。
- 今後も、現行の運用を継続することで、長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	60.2%	80.4%	147.6%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

グローバル・アロケーション・オープンBコース(年4回決算・為替ヘッジなし)

(代表ファンド:グローバル・アロケーション・オープンBコース(年4回決算・為替ヘッジなし)) (同種ファンド数:5ファンド)



R&Iファンド大賞2026
バランス比率変動型(株式・REIT中心) 部門

受賞ファンド

グローバル・アロケーション・ファンド
毎月決算・為替ヘッジなしコース(目標払出し型)

※基準日:2026年3月31日。当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

ファンド名	設定日	純資産	HP
グローバル・アロケーション・オープンBコース (年4回決算・為替ヘッジなし)	2013/10/21	526億円	■
グローバル・アロケーション・ファンド 毎月決算・為替ヘッジなしコース(目標払出し型)	2013/2/8	168億円	■
グローバル・アロケーション・オープンAコース (年1回決算・為替ヘッジなし)	2013/10/21	139億円	■

ファンド名	設定日	純資産	HP
グローバルドライブ(3ヵ月決算型) 為替ヘッジなし	2014/2/24	40億円	■
グローバルドライブ(年1回決算型) 為替ヘッジなし	2014/2/24	24億円	■

ファンドの概要

- 世界各国の様々な資産*に分散投資をします。
- ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・アロケーション・ファンドへの投資または当該ファンドの投資結果を反映する指数に投資します。
- ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドークラスXへの運用指図に係る権限を、ブラックロック・ジャパン株式会社に委託します。

*株式・債券・コモディティなど

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 世界各国の株式や債券など様々な資産への分散投資を行う中で、2025年度に株式の組入比率を高めにしたことなどがパフォーマンスに貢献しました。株式内ではAIや自動化、生産性向上を推進する高品質な成長企業などへの投資を行いました。地域別では、米国経済の相対的な強さと優良銘柄を選好していることから、米国株式への投資を重点的に行いました。
- 今後も世界中の資産(株式・債券など)、国・地域、セクターなどから、投資魅力度が高いと判断する資産への投資を行い、リスクも意識しながら分散投資で得られる収益の獲得を目指します。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:グローバル・アロケーション・オープンBコース(年4回決算・為替ヘッジなし))

	3年	5年	設定来
騰落率	54.7%	68.0%	180.9%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

⑥ 運用実績

マネックス資産設計ファンド エボリューション

ファンド名	設定日	純資産	HP
マネックス資産設計ファンド エボリューション	2010/5/28	26億円	

ファンドの概要

- 世界各国の株式・債券・リートへ分散投資します。
- 基本ポートフォリオの推定リスク水準は原則として日本株投資*と同程度としつつも、世界の複数資産へ高度な分散投資を行うことにより、効率の良い運用を目指します。
- 基本資産配分比率は、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンの投資助言を受けます。
- 外貨資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

*過去30年間(1993年～2025年)の日経平均株価の標準偏差は概ね年率20%程度です。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 当ファンドは、株式やリートなどリスク性資産の比率が特に高いことが特色です。
- 2020年以降、株式などリスク性資産が上昇する一方で債券が下落するなか、リスク性資産の比率が高い当ファンドは良好なリターンを実現しました。
- 助言会社の方針のみで資産配分比率を決定するのではなく、中長期的な見通しや、構成比の変更内容の妥当性、より良い投資戦略案がないかといった事柄について助言会社と運用担当部署で議論を実施することで、双方納得のうえ構成比を決定しており、当プロセスが効果的に機能していると考えています。
- 今後も、現行の運用を継続することで信託財産の中長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

	3年	5年	設定来
騰落率	73.9%	88.0%	406.2%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。

*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

③ 運用実績

マネックス資産設計ファンド<育成型>

(同種ファンド数:2ファンド)

ファンド名	設定日	純資産	HP
マネックス資産設計ファンド<育成型>	2007/1/26	223億円	
マネックス資産設計ファンド<隔月分配型>	2007/1/26	5億円	

ファンドの概要

- 世界各国の株式・債券・リートに分散投資します。
- 基本資産配分は、各資産のリターン、リスク等を推計し、投資証券理論に基づいて決定します。
- 基本資産配分は、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンの投資助言を受けます。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

運用実績向上へ向けた取り組み・着眼点

- 当ファンドは、株式やリートなどリスク性資産の比率が高いことが特色です。
- 2020年以降、株式などリスク性資産が上昇する一方で債券が下落するなか、リスク性資産の比率が高い当ファンドは良好なリターンを実現しました。
- 助言会社の方針のみで資産配分比率を決定するのではなく、中長期的な見通しや、構成比の変更内容の妥当性、より良い投資戦略案がないかといった事柄について助言会社と運用担当部署で議論を実施することで、双方納得のうえ構成比を決定しており、当プロセスが効果的に機能していると考えています。
- 今後も、現行の運用を継続することで、信託財産の成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

基準価額騰落率(税引前分配金再投資)*1と運用実績評価*2

(代表ファンド:マネックス資産設計ファンド<育成型>)

	3年	5年	設定来
騰落率	45.3%	55.5%	134.2%
運用実績評価	上位	上位	—

*1 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りと異なります。

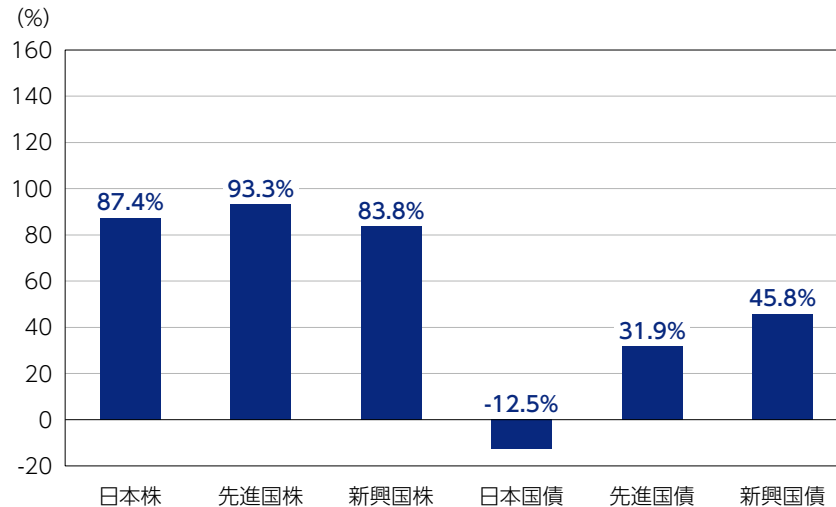
*2 運用実績評価の方法については、P4をご参照ください。



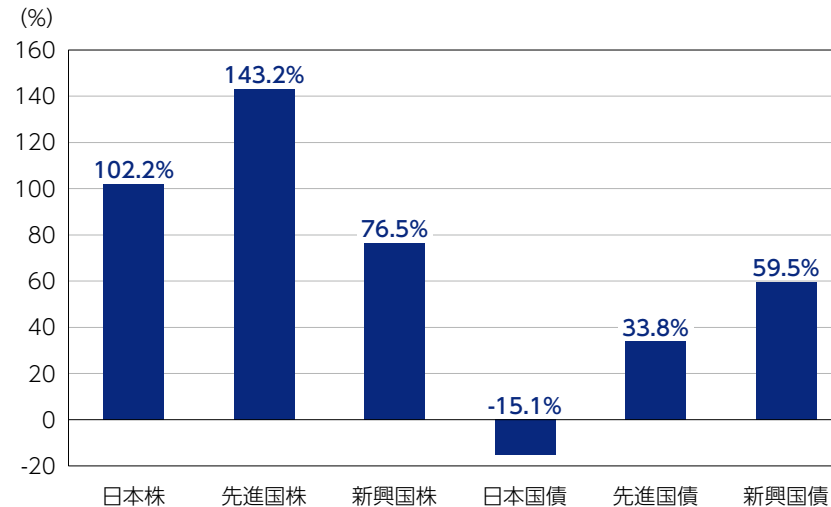
※巻末記載のご留意事項等を必ずお読みください。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等の詳細については上記リンクより当社ホームページにアクセスの上各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)等にてご確認ください。
※資金動向、市況動向等によっては、本資料に記載どおりの運用ができない場合があります。また、本資料の掲載データ等は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

代表的な資産クラスの騰落率

3年間騰落率



5年間騰落率



※基準日:2026年3月末
 ※各資産クラスの指数
 日本株:東証株価指数(TOPIX)
 (配当込み)、先進国株:MSCI
 コクサイ・インデックス(配当込
 み、円ベース)、新興国株:MSCI
 エマージング・マーケット・イン
 デックス(配当込み、円ベー
 ス)、日本国債:NOMURA-BP
 I国債、先進国債:FTSE世界国
 債インデックス(除く日本、円
 ベース)、新興国債:JPモルガン
 GBI-EMグローバル・ディバ
 シファイド(円ベース)
 (注)海外の指数は為替ヘッジ
 なしによる投資を想定して、円
 換算しております。

<指数の著作権等>

- 東証株価指数および東証REIT指数の指数値および東証株価指数および東証REIT指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数および東証REIT指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数および東証REIT指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有しています。JPXは、東証株価指数および東証REIT指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、本商品の設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
- MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンド(債券スマートインカム戦略<リスク抑制型>(ファンドラップ))のスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバシファイドは、J.P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ.P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

用語集

アンダーウェイト	投資対象の配分比率を、基準となる資産やベンチマーク等の比率より小さくすることです。
オーバーウェイト	投資対象の配分比率を、基準となる資産やベンチマーク等の比率より大きくすることです。
グロース	growth(成長性)を指します。将来高い成長性が見込める銘柄を一般にグロース銘柄／グロース株(成長銘柄／成長株)と呼び、こうした銘柄に投資する運用をグロース型投資といいます。
信用リスク	投資する株式の発行者や、債券の発行体が財務状態の悪化などにより、その株式や債券の価格が下落したり、デフォルト(債務不履行)になるリスクのことです。
デュレーション	金利の動きに対する債券価格の感応度のことです。金利がある一定の割合で変動した場合、債券の価格がどの程度変化するかを示す指標のことで、この数値が大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動率が大きくなります。
トップダウン・アプローチ	ファンドのポートフォリオ構築・運用手法の一つ。各国の景気サイクルなどのマクロ経済予測などをもとに資産配分、業種配分を決め、銘柄選択を行うポートフォリオ構築手法をいいます。
ドローダウン	最大資産(累積利益)からの下落率のことです。クオンツ運用などでは、最大ドローダウン(下落率)をどれだけに設定するかがリスク管理の観点から重要な要素の一つとなります。
パフォーマンス	ファンドの運用成績のことです。ある期間における「ファンドの基準価額の騰落率」、「ベンチマークに対する超過収益率」、「標準偏差(リスクの度合いを示す指標)」などを使ってパフォーマンス(運用成績)を評価します。
バリュエーション	企業の利益・資産等、本来の企業価値と照らし合わせ、株価の割安・割高を判断するための指標です。代表的なものに、PER(株価収益率)やPBR(株価純資産倍率)、PCFR(株価キャッシュフロー倍率)などがあります。
バリュー	value(価値)のこと。PER(株価収益率)やPBR(株価純資産倍率)などのバリュエーション指標を用いて投資価値を判断し、割安と判断される銘柄を一般にバリュー銘柄／バリュー株と呼び、こうした銘柄に投資する運用をバリュー型投資といいます。
ファンダメンタル分析	マクロ経済、産業動向、個別企業などの経済的基礎要因を基に行う分析です。
ボトムアップ・アプローチ	ファンドのポートフォリオ構築・運用手法の一つです。個別企業のファンダメンタルズ調査などによるミクロ経済分析に基づき、組入銘柄を選択してポートフォリオを構築する運用手法です。
モメンタム	相場の勢いを示す際の表現で、「業績モメンタム」、「株価モメンタム」などの形で使われます。またテクニカル分析で、相場の強弱を測る指標の一つとして利用されています。
リスク	投資におけるリスクとは「収益の不確実性」を指します。収益のブレが大きいものほどリスクが大きく、収益のブレが小さいものほどリスクが小さいといえます。有価証券の価格変動(収益のブレ)の大きいものをハイリスク、小さいものをローリスクといいます。

ご留意事項等

- 本資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- お申込に際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。
- 各ファンドは、株式や債券等の値動きのある有価証券（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 本資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額については元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

<データの著作権等>

- ©2026 Morningstar. All Rights Reserved. ここに含まれる情報は、(1)Morningstarおよび/またはそのコンテンツ提供者の専有財産であり、(2)複写または配布は禁止されており、また(3)正確性、完全性及び適時性のいずれも保証するものではなく、また(4)投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者は、この情報の使用により生じるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

<R&Iファンド大賞について>

- 「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。



アセットマネジメントOne